メギ

課題フォルダ

一月～三月

小６までの課題フォルダには、暗唱検定用の暗唱長文の３ページのうち１ページだけを末尾に載せています。その先の暗唱長文は、ウェブでごらんください。
https://www.mori7.com/mine/as2.php

●言葉の森 233-0015 横浜市港南区日限山4-4-9 電話 045-353-9061

教材の説明

▼作文ノート

2023年7月より、作文用紙と封筒用紙は、お送りしなくなりました。
作文については、市販の作文ノート120字詰、150字詰、200字詰などを各自でご用意ください。
作文は、写真で画像を撮り、作文の丘から送ることができます。
作文を郵送される方は、封筒を各自でご用意ください。

▼再発行料金

課題フォルダやシールの再発行を希望される場合の料金は、次のとおりです。
課題フォルダ：550円　住所シール：165円
課題フォルダはホームページでもごらんになれます。項目や住所の記載は、手書きでもかまいません。
各種用紙類は、学習の手引にＰＤＦファイルとして載せていますので、それを印刷して使っていただいても結構です。
https://www.mori7.com/mori/gate.php
課題フォルダは、ウェブページから印刷することもできます。
https://www.mori7.com/mine/kd.php

▼欠席や電話先変更をする場合は

欠席や電話先変更をする場合は、ホームページからご連絡ください。担当の先生のメールに直接連絡が行きます。
しかし、この連絡メールには返信はありませんので、時間の変更依頼などの連絡は行わないようにしてください。
https://www.mori7.com/outi/d/
ユーザー名、パスワード、生徒コード（生徒コードはユーザー名と同じ。いずれも半角英数字）を入れて、「先生への欠席等連絡」というリンク先をクリックします。

オンラインクラス一覧表のご自分のコードの横にある（三角印）から欠席連絡をすることもできます。
欠席や電話先変更の連絡はお電話でも受け付けています。電話045-353-9061（平日10:00〜17:00　土日10:00〜12:00）

課題集 メギ の山

長文集 ◆横書き長文全文 ▲縦書き長文全文

★印がその週の主な課題です。（感）は感想文の課題です。
「絵 池 渚 波」はインターネットのリンク先です。ヒントなどにリンクしています。<http://www.mori7.com/mine/iwa.php>
◆▲をクリックすると長文だけを表示します。◆横書きルビ付き△縦書きルビなし▲縦書きルビ付き

週	課題	週	課題
1.1週 絵 池 渚 波	○自由な題名 ○クリスマス、おおみそか、お正月 ★ポイ捨て、除夜の鐘 人間の可能性 ◆ △ ▲	**2.3週** 絵 池 渚 波	○自由な題名 ○バレンタインデー、もうすぐ春が ★科学は記述から始まる（感） ◆ △ ▲
1.2週 絵 池 渚 波	○自由な題名 ○新学期、冬休みの思い出 ★産業革命以来、機械は（感） ◆ △ ▲	**2.4週** 絵 池 渚 波	○自由な題名 ○ひとりでいることと友達といること ★清書（せいしょ） ○それにしても、五億冊というのは ◆ △ ▲
1.3週 絵 池 渚 波	○自由な題名 ○寒い朝、体がぽかぽか ★社会は個人から成り立つものと（感） ◆ △ ▲	**3.1週** 絵 池 渚 波	○自由な題名 ○ひなまつり ○ハトやカラスの害、がんばったこと ★たしかブレーズ・パスカル（感） ◆ △ ▲
1.4週 絵 池 渚 波	○自由な題名 ○規則のよい点悪い点 ★清書（せいしょ） ○エーレンベルグは、 ◆ △ ▲	**3.2週** 絵 池 渚 波	○自由な題名 ○春を見つけた、種まき ★日本人が、淡泊であるかわりに（感） ◆ △ ▲
2.1週 絵 池 渚 波	○自由な題名 ○節分、マラソン ○ひとりでいることと友達といること、緊張したこと ★本質的な問題に（感） ◆ △ ▲	**3.3週** 絵 池 渚 波	○自由な題名 ○この一年、新しい学年 ★日本のある会社が香港で（感） ◆ △ ▲
2.2週 絵 池 渚 波	○自由な題名 ○雪や氷、なわとび ★新聞というものをまるで読まない（感） ◆ △ ▲	**3.4週** 絵 池 渚 波	○自由な題名 ★清書（せいしょ） ○人間がこの世に生きて持つ ◆ △ ▲

項目表 メギ の苗

目標：意見文の基本的な構成を身につける

★重要・評価あり　◎重要・評価なし　○普通・評価なし　段落は大体の目安です。

第１段落	項目	キーワード	説明
構成 【 】	★ 構成図	構成図　＜＜構成＞＞	構成図をかく
構成	○ 要約（感想文）	要約　＜＜構成＞＞	要約を二〇〇字ぐらいでまとめる
構成	○ 四段落構成		大きく四つぐらいの部分に分けて書く
構成	○ 書き出しの工夫	書き出しの工夫　＜＜構成＞＞	会話・色・音・情景で書き出す
主題 【 】	★ 是非の主題	よい　良い　べき　大切　＜＜主題＞＞	私はＡがよいと思う

↓

第２段落	項目	キーワード	説明
構成 【 】	★ 複数の理由一	理由　＜＜構成＞＞	…の理由は第一に
題材	◎ 体験実例	体験　私　わたし　僕　ぼく　＜＜題材＞＞	自分らしい体験実例を書く
表現	◎ たとえ	まるで　みたい　よう　＜＜表現＞＞	まるで…のよう
主題	○ 途中の感想		途中で主題に関連した感想を書く

↓

第３段落	項目	キーワード	説明
構成 【 】	★ 複数の理由二	理由　＜＜構成＞＞	…の理由は第二に
題材 【 】	★ データ実例・長文実例	データ　長文　＜＜題材＞＞	数字の実例・長文集の実例
表現	◎ ユーモア表現	笑　爆　ユーモア　＜＜表現＞＞	ユーモアのある表現（笑）

↓

第４段落	項目	キーワード	説明
主題 【 】	★ 反対意見への理解	確かに　＜＜主題＞＞	確かにＢもよいが、しかしＡが
表現 【 】	★ 名言の引用	名言　言葉　ことば　＜＜表現＞＞	主題に合わせて名言を引用する
主題 【 】	★ 是非の主題	よい　良い　べき　大切　＜＜主題＞＞	私はＡがよいと思う
構成	○ これからの結び	これから　＜＜構成＞＞	自分の問題としてこれからのことを書く

字数	★ １２００字以上	
表記	○ 決めてくる、読みかえす	書くことを決めてくる、書いたあと読み返す
表記	★ ９０分以内	書き始めから書き終わりまで９０分で
表記	○ 構成メモ	作文を書く前に構成メモを書く
表記	○ 漢字を使う、ていねいに書く	習った漢字を使いていねいに書く
表記	○ 段落三文	段落の目安は三文ぐらい
表記	○ 一文一点	読点は１文に１～２点を目安に
表記	○ 常体で書く	した・だった・であるなどで書く練習
表記	○ 誤字一ヶ所以内	一つの作品に誤字は一つまで

長文 1.1週 me

1 一匹の子犬が、公園をうれしそうに走っていく。人間の三歳ぐらいの子供が、やはり公園をうれしそうに走っていく。その二つの姿は、どちらも同じようにほほえましい。2 しかし、子犬の方は、その後何年たってもやはり犬のまま大きくなるだけだが、人間の子供は、成長の過程で、偉大な才能を発揮する人間になるか、逆に凶悪な犯罪者になるか、あるいは平凡な人間として一生過ごすことになるか、予測することができない。3 また、たとえ平凡な人間と思われていても、どういう個性や趣味があるかということは千差万別だ。私たちは、この人間の可能性というものをよく見ておく必要がある。

4 なぜ、人間をその将来の可能性から見る必要があるかというと、その理由は第一に、人間を幅広く見ることができるからだ。例えば、今何の取り柄もないように思われる人でも、場面が変われば急に真価を発揮することがある。5 小学生のころ、友達と数人でキャンプに出かけた。そのメンバーの中に、学校でも評判のいたずらっ子が入っていた。私は、当初、その子がキャンプに参加することをあまり快く思っていなかった。しかし、実際にキャンプが始まってみると、その子の大活躍でみんなが大いに盛り上がった。6 この経験から、私は、人間を一つの面からだけ見るべきではないこと深く実感した。

人間を可能性から見ることが大切なもう一つの理由は、私たちは進歩ばかりではなく退歩することもあるからである。7 例えば、豊臣秀吉は、若いころさまざまなアイデアと実行力で新しい時代を切り開く役割を果たした。しかし、晩年は自分の権力に執着することに関心の多くが移っていたように思える。たとえ素晴らしい業績を残した人であっても、進歩をやめればやはり後退するしかないのだ。

8 確かに、私たちの日常生活のほとんどは平凡な時間の繰り返しだ。しかし、人間は、いざというときは、周りの人が予想もできないような変化をする存在だということをいつも心にとめておく必要がある。9 「男子三日会わざれば刮目して待つべし」という言葉がある。たった三日でも、人間は大きく変化する。子犬は、成長しても犬のままだ。しかし、人間は、豚にも天使にもなれる。よりよく生きるためには、常にその両方の可能性を自覚していることが大切なのである。0

（言葉の森長文作成委員会　M）

課題 メギ 1.1週
★ポイ捨て、除夜の鐘
今週は題名だけの課題です。
解説 1.1週

第一段落は、身近な実例と意見。「この前、私は近所の公園でゴミが捨てられているのを見た。」のように具体的な話を書いて始めます。そのあと続けて意見。「私はポイ捨てはよくないと思う。」という意見を書きます。

第二段落はその理由です。「ポイ捨てがよくないと思う理由は、第一に、ポイ捨てはまたポイ捨てを呼ぶからだ。」のように書きます。そのあと、続けてその実例。最初にポイ捨てをした人は軽い気持ちだったかもしれませんが、一人が捨てると次々にゴミが捨てられるということはよくあることです。

第三段落は、理由その２。「第二の理由は、ポイ捨ては地球環境にもよくないからだ。」データ実例は、「日本の年間ゴミ排出量は5020万トン。東京ドーム135杯分。」が使えそうです。

第四段落は、反対理解と名言の引用。「確かに、だれでもゴミを持ち歩きたいとは思わないだろう。しかし、「問題とは、そこにあるものではなく、自分が作るものである。」という名言もあるように軽い気持ちでしたポイ捨てが大きな問題につながることもあるという点を認識すべきだ。」

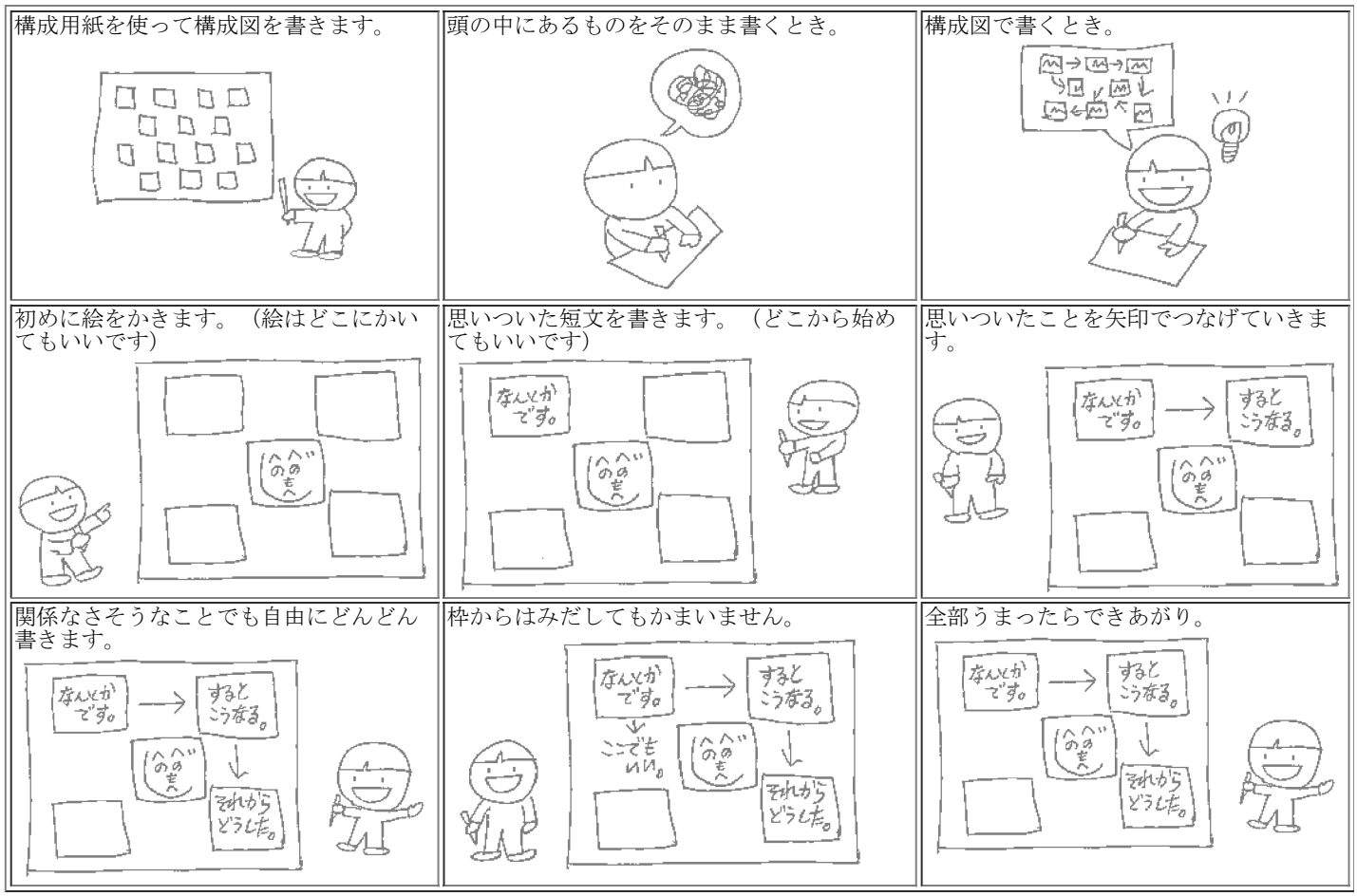
解説のつづき 1.1週

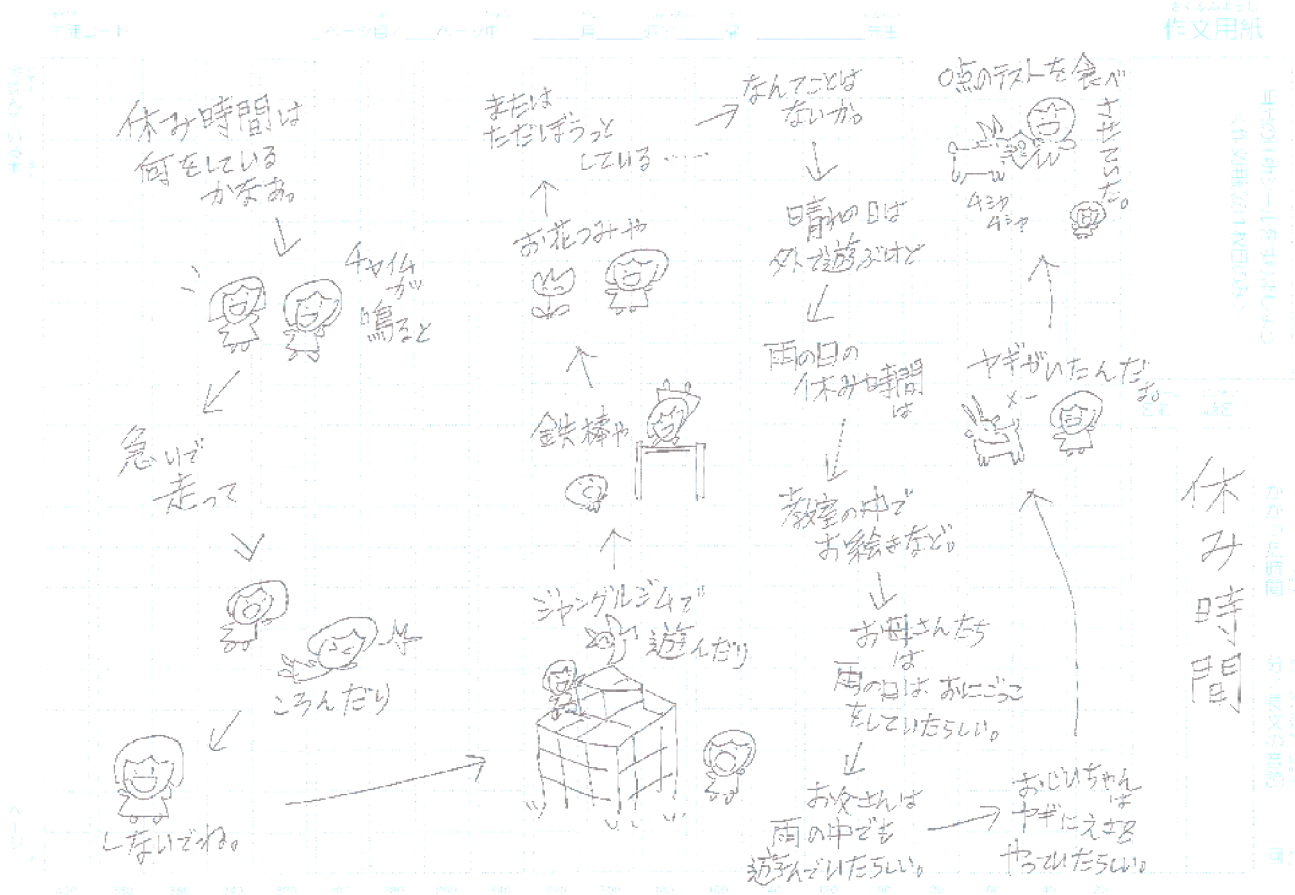
構成図を書くときに大事なことは、思いついたことを自由にどんどん書くことです。テーマからはずれていても、あまり重要でないことでも一向にかまいません。

たくさん書くことによって、考えが深まっていきます。したがって、構成図は、できるだけ枠（わく）を全部うめるようにしてください。しかし、全部埋まらなくてもかまいません。

枠と枠の間は→などで結びます。この矢印は、書いた順序があとからわかるようにするためです。作文に書く順序ということではありません。

構成用紙は、構成図の書き方に慣れるために使います。構成用紙を使わずに、白紙に自由に構成図を書いてもかまいません。





絵のヒント 1.1週（低学年の場合は、ヒントではなく、ただのカットとして見てください）

★産業革命以来、機械は（感）

長文 1.2週 me

1 産業革命以来、機械は人びとの生活を豊かにする打出の小槌の役目を果たすものだと思われて来た。そしてその進歩はイコール人類の幸福につながるとも信じられていたのである。過去百年の間、わたしたちはなんの疑いもなくそれを信じて来た。2 その信仰がまちがいでなかったことは、人類がついに月に到達することによって証明されたかのように見えた。まさに科学の勝利を確認する成果だったわけである。そうした背景に立ったとき、なによりも頼りになる確かなよりどころは、工学的なものの考え方であったし、またそう信ずるのが当然のなりゆきでもあった。3 そして数量的に証明できるものにこそ真理があり、それのみが正しいとする考え方が、広く行きわたっていったのである。

だが最近になって、それだけがすべてではないということが、反省されるようになった。4 経済の高度成長下にあっては、その目的を達成する一番有力な武器は、工学的な発想と工学技術であった。だがいまやその行きすぎがいろいろな面で見直されようとしている。それを補うための最も有効な方法の一つとしてあげられるのは、生物学的な発想であろう。5 「二〇世紀は機械文明の時代であったが、二一世紀は生物文明の時代になる」というような言葉が使われている。これもまたそのことを示唆するとみてよいであろう。

いまここで述べてきたことは、デザインの分野についてもあてはまることである。6 以下にとりあげるのは、やや片寄った対象ではあるが、わたしの関係するインテリアの分野を例にしてこの問題を考えてみたい。

生物学と建築というと、いまのところいかにも縁遠い存在のように思われる。だが果たしてそうであろうか。

7 動物学は、かつてはおもに医学の補助手段として発達した面があった。一八世紀以来の比較解剖学や、一九世紀になって発展した比較生理学は、そうしたところから出発した学問であった。8 だがそれらの科学は、現在ではもっと広く人間そのものの生き方や、人間観の構成という分野にさえも、寄与するようになって来ている。おなじ事情は植物学についてもいえることである。

9 それにもかかわらず、一般には生物学が建築とかかわり合う範囲は、動物学なら建築害虫、植物学なら造園の分野くらいでしかないという単純な受け取り方がある。これはいささか近視眼的にすぎるのではないだろうか、とわたしは思う。

0 これまでの建築は芸術性と工学的な技術に重点がおかれていた。建築学が一つ一つの独立した建物をつくる技術であった段階まではそれでよかったであろうが、それが一方では都市という空間にまで拡大し、他方ではまた、インテリアというミクロの空間にまで細分化されて来た現在では、その底流に生物学的なものの見方、考え方がしっかり根を下していないと、建築もインテリアも本当に人間のためのものになりえないということが、いま反省され始めようとしている。

考えてみるとわれわれの生活の大部分は、生物的嗜好でよいわるいを判断していることのほうが多い。だが従来の工学的立場では、そういうあいまいさは技術とは認められなかった。そこでなんとか数量的にあらわそうとするが、現在の技術の段階ではどうしても割り切れない部分が残ってしまう。その断層を埋める手段が、しばしば芸術の名のもとに、単なるカッコよさとすり換えられるおそれもあったのである。だが新しい生物学は、そうしたあいまいさに対して、一つのよりどころを示す可能性を持つようになった。そして同時に、数量的に割り切れるものだけが科学のすべてではない、ということも教えてくれるようになって来たのである。

いま都市空間の例をあげよう。ブラジリアはあらゆる技術を駆使して二一世紀の夢の都市としてつくられたはずであった。だが実際にできあがってみると、かんじんの人間がなかなか住みつかない。その理由を調べてみるといわゆる街角がなかったためだという。気楽に人と人とが接し合う泥臭い片隅がなくて、街のたたずまいも、周辺の人造湖も、よそゆきの冷たい美しさで整いすぎていた。あるがままの人間臭さのよどみ、といったものが欠けていたのが原因だったというのである。

そうした話題はわれわれの身辺にも少なくないようである。新宿副都心ができてから一年後の反省は、予想していたほどの人が寄りつかないことだったという。その原因は、人を引きつけるなにかがまだ足りない。庶民的な泥臭さ、たとえば赤ちょうちんや縄のれんというようなものが欠けていたことに気がついたというのである。住まいの環境が美しくあることは、たしかに望ましいことにちがいないが、芸術第一主義では庶民にはとても住めない。庶民は人間であるよりもさきに、まず生物で、生物は本来もっと泥臭いものだということが、いつの間にか忘れられていた。それに気がついたわけである。

（小原二郎の文章による）

課題 メギ 1.2週
★産業革命以来、機械は（感）
今週は感想文の課題です。
解説 1.2週

　これまでの建築は、芸術性と工学的な技術に重きが置かれていました。しかし今、建築は次第に人間の生物学的な面を重視するようになってきています。
　ＳＦなどで出てくる未来都市は幾何学的なデザインのものが多いようです。一見、そういう幾何学的な都市の方が清潔で合理的で住みやすい感じがするかもしれません。しかし、もし実際にそういう都市に住むとしたら、何週間かたつうちにだんだんストレスがたまってくるでしょう。
　家で飼っている犬や猫も同じです。人間がきれいに敷物を敷いてやっても、必ずといっていいほどぐしゃぐしゃにしてから落ち着いて寝るようです。
　部屋の掃除をしたときなど、見た目はきれいでも、すごく使いにくくなってしまうことがあるでしょう。もちろん、あまり汚くても使いにくいのですが……。

解説のつづき 1.2週

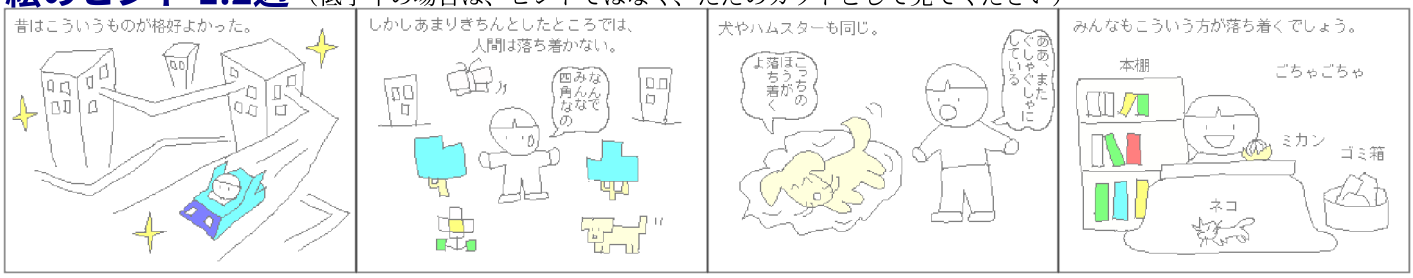
　第一段落は要約。その要約に続けて「整った外観よりもなじみやすいことの方が大事だ。」という意見。

　第二段落はその理由。「その理由は第一に、整いすぎた環境よりも、たとえ統制は取れていなくても慣れ親しんだ状態の方が落ち着くからだ。」ハムスターなどの動物は、人間がきれいに敷物を敷いてやっても、必ずといっていいほどぐしゃぐしゃにしてしまいます。それは、その方が落ち着くからでしょう。
　これまでは、「理由」というキーワードを文中に入れて、「第一にその理由はごちゃごちゃしている方が落ち着くからである」などと書いていました。これからは、「第一に、ごちゃごちゃしている方が落ち着くからだ。（理由）」という書き方でもいいです。

　第三段落にもう一つの理由。「その理由は第二に、整いすぎた環境はかえって落ち着かないからだ。」部屋の整理整頓をしたら、どこに何があるかわからなくなり、かえって混乱してしまうことがあります。データ実例は、「日本の年間ゴミ排出量は5020万トン（データ）。こんなに豊かな生活では自然にごちゃごちゃするのも当然だろう」、又は「日本の年間海外旅行者数は1500万人を突破（データ）。人間は決まりきった生活よりも変化を求める。整いすぎた環境は息苦しくなるからだろう」など。「データ」というキーワードは、括弧書きで書くこともできます。

　第四段落は、反対意見への理解と名言の引用。「確かに見た目がきれいであることはいいことだ。しかし、「大切なのは、健康らしい外見ではなく、健康自身である。」という名言もあるように、外見よりも心地よさの方が大事だ。」

絵のヒント 1.2週（低学年の場合は、ヒントではなく、ただのカットとして見てください）



★社会は個人から成り立つものと（感）

長文 1.3週 me

1 社会は個人から成り立つものとされている。したがって実状はどうであれ、それぞれの個人は、社会の構造、運営、将来について責任をもつものとして意識し、行動していることになっている。2 しかしながら、このような意識は明治以降に輸入されたものであり、現実の日本人の多くは、社会を構成する個人としてよりも、世間の中にいる、一人の人間として行動している部分の方が多いのである。

3 世間と個人の関係について注目すべきことは、個人は自分が世間をつくるのだという意識を全くもっていない点にある。自己は世間に対して、たいていのばあい受け身の立場にたっているのである。個人の行動を最終的に判定し、裁くのは世間だとみなされているからである。4 「世間」という言葉が定義しにくいのは、世間は常に個人との関係においてその個人の顔見知りの人間関係の中で生まれているものだからであり、人によって世間が広い人も狭い人もいるからである。したがって個人ごとにさまざまな世間があり、日本には数えきれないほどの世間があることになる。5 ときには身内以外にさしたる世間とのつきあいもなく暮らしている人もいるのであるが、それでも世間の評判は気にかかるのである。

欧米人は日本人を権威主義的だとみることが多いが、それは日本人が常に世間の目を気にしながら生きており、彼らからみると個性的ではないようにみえるためである。6 日本人はできるだけ目立たないように生きることが大切であると考え、自分の能力も必要以上に示さないようにする。日本人が何よりも怖いと思っているのは「世間」から爪弾きされることだからである。7 その怖いと思っている態度が欧米人には理解しかねるのであって、それは彼らには「世間」が理解しかねることと同じ根をもっている。

個人の性格にもよるが、世間の中で暮らす方が社会の中で暮らすよりも暮らしやすく、楽なのだ。8 そこでは長幼の序、先輩・後輩などの礼儀さえ心得ていればすべては慣習どおりに進み、得体のしれない相手とともに行動するときの不安などはないからである。さらに世間の中での個人の位置は、長幼の序や先輩・後輩などの序列で一応決まっており、能力によってその位置が大きく変わることはあまりない。9 個人が世間に対して批判をしたり、不満を述べることがあっても、世間のルールは慣習そのものであり、なんら成文化されていないから、不満も批判も聞き流されてしまうのである。

日本人の多くは世間の中で暮らしている。0 （中略）現実の日常生活では世間の中で暮らしているにもかかわらず、日本のインテリは少なくとも言葉のうえでは社会が存在するかのごとくに語り、評論家や学者は、現実には世間によって機能している日本の世界を、社会としてとらえようとするために、滑稽な行き違いがしばしば起こっているのである。このことは政党や大学の学部、企業やそのほかの団体などの人間関係のすべてについていえることであり、それらの人間関係は皆そこに属する個人にとっては、世間として機能している部分が大きいのである。個々人はそれら世間と自分との関係を深く考えず、自覚しないようにして暮らしているのである。

日本人の一人一人にそれぞれ広い狭いの差はあれ、世間がある。世間は日常生活の次元においては快適な暮らしをするうえで必須なものに見えるが、その世間がもつ排他性や差別的閉鎖性は公共の場に出たときにはっきり現われる。たとえば何人かで旅に出るために列車を待っているとしよう。列をつくっているばあいも、何人かのうちの一人が先頭に並んで、あとからきた者もその先頭の一人のあとにぞろぞろと割り込んでくることが多い。このようなとき、私たちは自分たちの仲間の利益しか考えていないのである。あるとき電車の中で私は中年の女性に席をゆずった。二駅ほど過ぎてその女性のとなりの席が空いたとき、その女性は遠くの席に座っていた仲間を呼び寄せて並んで座り、「二人とも座れて良かったね」と話し合っていた。彼女たちにとってそのとき、二人だけの世間が形成されており、まわりの人間のことは全く彼女たちの考慮の中に入っていないのである。このようなことは日本では日常的にみられることであり、電車の中で宴会を始めたり、騒いだりする人たちは常にどこでも見られるのである。このような事態に対して、日本人には公徳心が足りないとかいろいろいわれるが、問題は公徳心ではなく、ここでつくられている仲間意識が、多くの人たちによって是認されているという点にある。

そのようなとき私たち日本人には、自分たちが排他的な世間をつくっているのだ、という認識がほとんどないのである。

（阿部謹也著『西洋中世の愛と人格』より）

課題 メギ 1.3週
★社会は個人から成り立つものと（感）
今週は感想文の課題です。
解説 1.3週

「日本人の多くは世間の中で暮らしている」というところがこの長文のテーマです。電車の中でグループで騒いでいる人たちというのは、よくいるでしょう。そのグループの中という世間で生きているので、ほかの乗客という社会が見えなくなってしまうのです。会社ぐるみの汚職なんていうのも、会社という世間だけが視野に入って、社会というより大きな視野を持てないところから来るのでしょう。しかし、日本人の感覚としては、たとえ社会的に見て悪いことであっても会社のためにやったという人を評価するところがあるから難しいですね。学校の中でいじめなどが顕在化しにくいのも、「あいつがちくった」とクラスという世間から爪はじきされることが嫌だからということがありそうです。「個人」「社会」「世間」などという言葉をキーワードにして考えてみましょう。

データ実例は、「世代別ストレス解消法」などが使えそう。「四季を代表する旬の食べ物」なども使い方によっては生かせるかもしれません。

解説のつづき 1.3週

第一段落は要約。その要約に続けて、「私は世間というものにとらわれすぎるのはよくないと思う。」という意見。

第二段落はその理由。「その理由は第一に、個人の意見を持ちにくくなるからだ。」仲のいいグループの中で自分だけ違う意見を言うことはなかなかできないものです。そんな自分の体験を書いてみましょう。

第三段落にもう一つの理由とデータ実例。「もう一つの理由は、みんなと同じような視野でしか物事を見られなくなってしまうからだ。ある調査によると、行きたい旅行先（日本交通公社　1997年）1位 オーストラリア 57.2% 2位 ハワイ 48.4% 3位 カナダ 47.6% 4位 スイス 45.6%というデータがある。これを見ていると、自分の行きたいところも周囲の影響を受けていることがよくわかる。」

第四段落は、反対意見への理解と名言の引用。「確かに仲間同士で助け合うことはよいことだ。しかし、「自分が考えるとおりに生きなければならない。そうでないと、ついには自分が生きたとおりに考えるようになってしまう。」という名言もあるように、世間にとらわれずに視野を広げ、自分の価値観をしっかりと持つことが大事だ。」

絵のヒント 1.3週（低学年の場合は、ヒントではなく、ただのカットとして見てください）

○エーレンベルグは、

長文 1.4週 me

エーレンベルグは、植物が生育するためにもっとも適した環境には二つの場合があるのではないか、と考えた。

その一つは、単植栽培の実験で最大の生長量を示す場所で、もし競争相手がいなければ、適度の水分と養分を自由にとり入れて、のびのびと生育できる地域だ。彼はこのような地域を生理的最適域と名づけた。

もう一つは、混植栽培の実験で最大の生長量を示したような場所だ。つまり自然に近い状態で、ある植物が自分よりも競争力の強い植物によって生理的に最適の場所をうばわれているため、心ならずもその場所から押し出され、もっと悪い条件のもとで生育しているような地域である。そんな地域を、彼は生態的最適域と名づけた。

私は感心したが、ぜんぜん疑問がなかったわけではない。

生理的最適域という言葉は全面的に納得できる。だが生態的最適域のほうはどうだろう？　自分にとってもっともよい環境条件からややはずれて、湿った場所や乾いた場所に追いやられることが最適域という言葉で言いあらわされてよいのだろうか？

だが、いまになって考えれば、エーレンベルグの言った最適域という意味の深さが、私にもわかるような気がする。ある生物社会が健全で長いあいだ繁栄してゆくためには、すべての欲望がほんの短時日のあいだ満足できる本来の最適生育域から多少ずれていて、なんでも思いどおりになるとは限らない環境のほうが、よいかもしれないからだ。そのほうが、かえってバランスのとれた社会を保ってゆくのにはよい状態だろう。もし、あまり強くなりすぎ、すべての競争相手にうちかってあらゆる欲望がかなえられたなら、その個体も種族も社会も滅亡してゆくのが生物界の鉄則なのだから。生態的最適域とは、生物社会の本来の意味から言って、まさに長つづきのする最適の地域だったのだ。

すべての生物には、生理的最適域と生態的最適域とがある。それを人間の社会にあてはめてみるとき、私にはちかごろの人間の生き方に、ある種の恐ろしさを感じないわけにはいかない。

私たちの日常生活は、いろいろな欲望を満足させる方向に進んでいる。熱いときは、冷房、寒いときには暖房。衣料、食物、自動車など、人間の欲望を満たすために、工場はあたらしい製品をこれでもか、これでもかと生産して提供する。

人間のかずかずのせつな的欲望がすべて満足させられるような社会が生まれようとしている半面、人間生命の持続的な存続がおびやかされるような画一的な社会化、文明化も進んでいる。矛盾した世の中だと、君たちは考えるだろう。だが、この現象はかならずしも矛盾ではない。

自然の山野に生きるもの言わぬ植物たちは、きわめてきびしい条件のところで、生理的に最適とはいえない場所でがまんをかさねながらも、力強く生きているではないか。そして何代たっても、そこから消滅しないで生きている。この姿に、私たち人間が学ぶところはないだろうか？

ことわっておきたいことがある。私はなにも人間の文明が進歩することに反対しているわけではない。便利なことは、不便なことよりもよいにきまっている。ただ、目先の欲望をすこしでも早く満足させるために、現在のように遠い将来までを見ようとしないで環境をこわしつづけてゆく。すると、これが人間にとって最高の環境だと胸を張ったときに、そこがじつは人間にとって最適地でもなんでもなく、人類の墓場だったということがあると言いたいのだ。

目的を達するためには多少の犠牲もしかたない、というような考えをすてて、まわり道でも時間をかけて目的に進むのだ。そのために環境をみずから破壊するような愚かなことは避けようではないか。まわり道をするのもまた、がまんの一つだ。そして、ある程度がまんのあるような状態こそ、生物社会にとってもっとも健全で、長つづきする状態なのだ。

（宮脇昭「人類最後の日」）

課題 メギ 1.4週　★清書（せいしょ）

４週目は清書です。

★本質的な問題に（感）

長文 2.1週 me

二番目の長文が課題の長文です。

1遊び始めたとき、雨が降ってきた。小学校の三年生のころのことだ。一緒に遊んでいた数人で、すぐに校舎の庇の下に入りそのまま遊びを続けた。やがて雨が次第に激しくなり、ついに本格的な大雨になった。2仕方がないので、家に帰ることにし、結局ずぶぬれになって帰り、母に笑われた。小学生の私たちにとって、遊びは人生の楽しさそのものだった。3休みの日は自然に早く目が覚めるので、夏休みは毎日早起きになる。勉強のある平日は遅くまで寝ているが、自由に過ごせる休みの日は、自分でも驚くほど早く起きられるのだ。

4遊びは、人間を生き生きとさせる。それが遊びのプラスの面だ。楽しい人生を送ることは、人間として欠かすことができない。そして、人間は遊びを通して勉強以外の何かを学ぶ。5遊びの過程にはトラブルがつきものだ。「勝った。負けた」「やった。やらない」などの言い合いがときどき生まれる。しかし、人間はそこで他人との関係に必要な感覚を身につけているのだろう。

6しかし、もちろん人間には勉強も必要だ。勉強は、動物にはない人間独自の時間の過ごし方で、遊びの対極として考えられている。例えば、漢字の書き取り、計算の練習、社会や理科のさまざまな知識の記憶。これらに共通しているのは、退屈で、できれば後回しにしたいということだ。7しかし、それがあとになって役に立つのも事実だ。例えば、算数の九九という計算方法を覚えることによって、その後の数字を使う生活は飛躍的に能率が上がる。また、もっと学年が上がると、学ぶこと自体が面白くなるという人もいる。

8このように考えると、遊びと勉強はもともと区別して考えるものではないのかもしれない。遊びも勉強も、自己の向上という点で大きくは一致する。9そして、自己の向上は、人間にとって最も大きい喜びのひとつだろう。だから、遊びを勉強のように成長の糧にするとともに、逆に勉強を遊びのように楽しむことが、これから必要になってくるのではないだろうか。0

（言葉の森長文作成委員会　M）

長文 2.1週 meのつづき

1本質的な問題に、どんな点から気付くのか、そういうものが、どんな状況から出てくるかというと、それも、その人の素質によるものだと思います。これはいろいろな要因が考えられます。小さいときからの物の考え方、家庭内での躾、いろんな要素が複雑に入り組んでいるわけです。**2**わがまま放題にして育ったのでは、そういうことを感じ、ある方向へもっていく機能、考え方が生まれてこないと思います。ですから、たとえ小さなことでも、自分がどういう立場にいるかということを、早くから家庭の躾や、親の愛情で、それを感じさせるということも可能だと思います。

3子供の頃のある時期から、仲間内でも、むちゃくちゃやっていると、みんなから嫌われることも、悟ります。

小さな家庭生活や、子供社会の体験から、本能的なわがままな感情と、一方では、経験的にどうすればいいかという、理性というものが、小さいときから生まれてくるのです。

4家庭の躾のようなものからでも、その端緒が生まれてくるのではないかと思います。躾の厳しい家庭では、小さい子供のころから、子供の就寝時間がきたから部屋に帰ってねなさいと、親は子供にいいます。かなり小さい時からでも、規律を教えるために、そういうことをします。**5**親は可愛いからといって手元においてわがままにさせません。これもわがままにならない、一つの愛だと思います。

子供が本能や感情で動くときに、早くから、親がきちんと、教育面で、子供の時間というものを躾として教えるわけです。**6**最初はわめこうが叫ぼうが、許してもらえません。こうして、我慢することや、自分の立場を自覚します。そういう日常生活を通じて、どんなに親しくても、それぞれの立場があるということを、躾として、覚えていきます。**7**日々の小さな出来事で、何でもないようなことですけど、そういうことの積み重ねにより、将来の判断力の一端が育つと思うのです。それを育てることが、家庭内の本当の愛情といえます。この教育が大事なんです。

8日本でも、昔はそうした伝統的な家庭の教えがあったと思うのです。キチンと父親が善悪や礼儀を教えていました。愛情を持ちながら、厳しく躾をしたものです。盲目的に可愛がらない、猫っ可愛がりをしない、そういう分別というものを、精神的につけていく家風がありました。**9**両親の躾がしっかりしているという、家庭内の空気を感じさせ、これが人間形成の一端を担っていました。そして自分の行動をどうしていくかを子供に感じさせ、自覚させたものです。

よく教育問題で、これからの学校教育の進路や個性化が文部省の教育審議会などで云々されます。**0**まず改革は親からやらないと効果が上がりません。「三つ子の魂百まで」ではないですが、本当に意識づくまでの幼い時代に、家庭でその芽は育つものです。親は本当の愛情とは何ぞやということを自覚する必要があります。昔は親が子供のために一生懸命食事を作りました。煙に涙を流しながら、朝ご飯を作るとか、手作りのシャツを着せるとかで育ったのです。今日は、弁当でも親が作るというのではなく昔と違って給食です。今日、一般的には、家庭でお惣菜として早く食べられるよう便利に出来ています。子供でもレンジで温めれば、苦労なく作れます。父親は外で稼いでいますが、その仕事の姿は見えません。母親は、子供には、塾へ勉強に行け、次に何しろということがあります。こうしたことが、一生懸命子供たちの事を考えながら、育てていると、親は思っています。ところが、子供の人間形成の大事な点は、人間的な愛情です。本当の愛情は何なのかと、スキンシップで親子の会話や感性が生まれるようにしなければなりません。そういうところの形式が変わっているのに、本当の愛情に気がつかないのではないかと思います。（中略）

親対子の愛情は古典的、本能的なものですから、経済的に貧しくても、温かい家族的な愛情のある家というのは幸福です。そこからいい人間性が育ちます。ちゃんとした人物が出てくるのではないでしょうか。

（平山郁夫「この道一筋に」より）

課題 メギ 2.1週
★本質的な問題に（感）
今週は感想文の課題です。
解説 2.1週

内容：人間が本質的な問題に気づき正しい判断力を持って成長していくためにはいろいろなものが必要だが、中でも、家庭での人間的な愛情に満ちた躾が大切だ。

解説：キレル中学生が最近ときどき問題になります。みなさんの学校でも、よくキレル人がいるでしょう。え、私がそうだって？（笑）

人間の成長は家庭での愛情と躾によって支えられているようです。と言っても、自分の家庭のこと以外はなかなかわかりませんから、自分の家庭の話のほかには、伝記や物語などを例として実例をさがしてみるといいでしょう。

エジソンは学校には行きませんでしたが、お母さんが本や実験道具を用意して、エジソンが成長することを助けました。勝海舟は子供時代、犬に噛まれて死にそうな大怪我をしたとき、お父さんが何日も抱きしめて看病しました。

意見文として書くときは、意見をできるだけ単純にすっきりと書くことがわかりやすい文章を書くコツです。この場合の意見は、「家庭での愛情と躾が大切だ」で、反対意見への理解は、「確かに素質のようなものもあるが」となるでしょう。複数の理由で構成してみましょう。

解説のつづき 2.1週

第一段落は要約。その要約に続けて、「子供の成長には家庭での愛情のある躾が大切だ。」という意見。

第二段落はその理由と体験実例。「第一の理由は、子供は親からの愛情ある根気強い躾によって善悪を判断する力を身につけるからだ。」

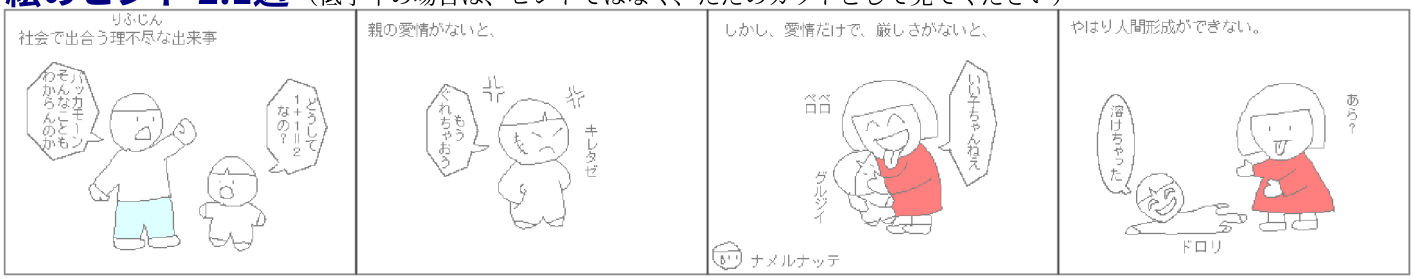
第三段落にもう一つの理由とデータ実例。「第二の理由は、親からの愛情を受けなかった子供は、他人にも愛情を与えることができないからだ。」

第四段落は、反対意見への理解と名言の引用。「確かに子供にはそれぞれ生まれながらに持っている素質というものもあるだろう。しかし、「ロバが旅に出たところで、馬になって帰ってくるわけではない。」という名言もあるように、親の愛情ある躾がなければ子供は立派な成長を遂げることはできない。」

解説のつづき 2.1週

数字の草で、「携帯電話の加入者数」「ストレス解消はカラオケ」などをもとに、「人間には、他の人とのコミュニケーションや愛情の交流を求める気持ちがある」と書くといいかも。

絵のヒント 2.1週（低学年の場合は、ヒントではなく、ただのカットとして見てください）



★新聞というものをまるで読まない（感）

長文 2.2週 me

1 新聞というものをまるで読まないと言い切っている人がいる。そうかと思うと、朝手洗いで新刊書の広告を読むのが最大の楽しみだという人もいる。私はどちらの方に近いのだろうかと考えてみた。たしかに、私は、新聞が一生懸命に論じようとしている主張の、あまり良い読み手ではないような気がする。2 たいていの場合、新聞が無名性の名において大衆を善導しようとして声高に説いている論述と、一人一人の新聞人が生きている現実のズレを、そのまま出してくれるような紙面にあまりお目にかからないからであろうか。

3 どちらかといえば、私は、行間と余白の読み手であるのかも知れない。そういう意味で私は、新聞を、月一度とか二度でなく毎日立つ縁日のようなものであると見ているふしがある。論説記事は神社の神主さんの祝詞のようなものであり、4 謹聴しなければならないときは黙っておとなしく聴くが、終わったらホッとする類のものであり、経済記事はおみくじのようなもの、政治・社会面に至っては、小屋掛け芝居のようなもので、読み手たる私はぶらぶら散歩して夜店をひやかす客のような存在である。

5 ということになると一番楽しく、ぴったりしているのはやはり広告欄という名の夜店通りかも知れない。6 広告も小さい下の書籍欄のように仲よく並んでいるのは、チャーミングな店舗であるが、全面広告のようなものはどちらかと言えば、香具師の口上じみているから、レイアウトを楽しむけれど、「眉つばもの」と聞きながす傾向がある。

7 それでは、あなたが時々執筆する文化欄・学芸欄の類は何であるかと問われると、言うまでもなくそれは縁日に立つ見世物、そのある程度集約されたものとしてのサーカスのようなものであると答えることができるだろう。8 時には侍くずれの居合抜きのような突っぱった言説あり、時にはガマの膏売りの口上よろしく本当か嘘かわからない言説の押し売りがあり、舶来の、人目をおどかせる新奇術よろしくうたい上げられる新思想ショーがある。9 そうかと思えば、アクロバット仕立ての音楽会評が載る。これらはすべて、巧みに演じられる時は、内容の当否は別として目を楽しませてもらえるが、下手な芸、または興行師の下手な意図が、前面に出たりすると目もあてられなくなる。

0 縁日であるから、やはりそこには、日常生活の時間の流れと異なった、さまざまな偶然の介入があった方がよい。思いがけない人に会うとか、国鉄（ＪＲ）払い下げの傘を百円か二百円で買うとか、思ってみなかった種類の商品に出会う面白さはできるだけあった方がよい。

その点、安物だが、新しさだけは強調してある夜店の売り場は子供にとって魅惑の空間そのものである。さし当たって、新聞の中にそうした偶然が潜んでいる空間を探すとすれば、それはやはり、あちこちに散らばっている情報である。情報もできるだけ、個人がひそかに培養している「私」文化といった、あまり人と分かち持ちたくないものに直接プラスになるものの方が、意外性の面ではより高いように思われる。

演劇、音楽、催し、人についてなど、こうした、自分が知っているから隠れた意味が明らかになるといった事実は、なるべく宝さがしのように、それらしくないところに置いてあった方がよい。多くの人が、新聞の読書欄というものをたいしてありがたがらず、本の広告の方にひそかな楽しみを託そうとするのは、そのような情報の極秘化の欲求の表れかも知れない。

課題 メギ 2.2週
★新聞というものをまるで読まない（感）
今週は感想文の課題です。
解説 2. 2週

内容：私は新聞の行間と余白を読む。新聞は縁日のようなものである。偶然が潜むあちこちに散らばった情報に関心を呼ぶものが多い。

解説：著者の主張は、新聞が正面から論じようとしているところよりも、行間や余白の部分におもしろさがある、ということですから、これをみなさんの人間関係や勉強などに当てはめて考えてみるといいでしょう。

授業中でも、先生の授業を聞くよりも「この先生は、今日も同じネクタイだなあ」とか「隣の席のＡ君はノートをとるふりをして寝ているなあ」と行間や余白を見ていたほうが楽しいでしょう。また、先生の雑談の中に意外に印象に残るひとことがあったりするものです。

解説のつづき 2. 2週

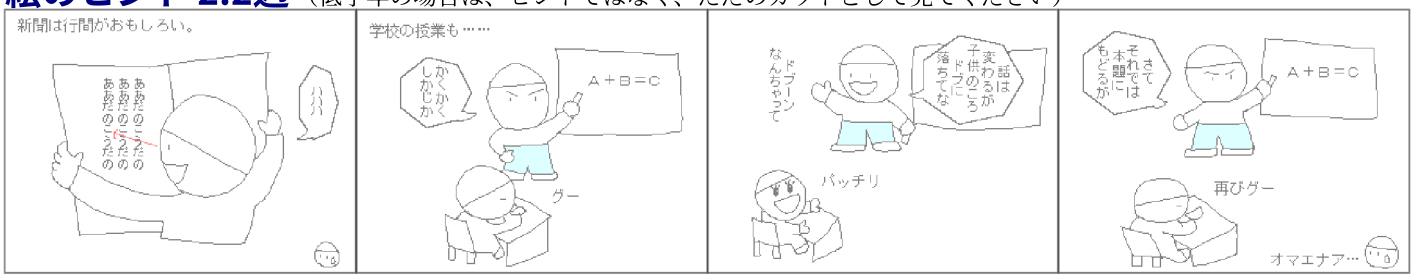
第一段落は要約。その要約に続けて「行間や余白といったものにもっと目を向けるべきだ。」という意見。

第二段落はその理由と体験実例。「その理由は第一に、行間や余白のように一見役に立たないものが重要な役割を果たしていることがあるからだ。」（「理由」というキーワードが文中に入らない場合は括弧書きで入れておきましょう。）雑談などを交えためりはりのある授業の方が大事なことが頭に入るものです。また、そんな雑談で聞いた話が意外なところで役に立ったということもあるかもしれません。

第三段落にもう一つの理由とデータ実例。「その理由は第二に、行間や余白というものがなかったら疲れてしまうからだ。」学校でも休み時間があるからこそ授業に集中できると言えるでしょう。データによると、男性、女性ともに、収入増と労働時間短縮のどちらを選ぶかという問いに対し、時間短縮を選ぶ割合の方が高くなっています。

第四段落は、反対意見への理解と名言の引用。「確かに中身が充実していることは大切だ。しかし、「雑草とは、まだ、その美点が発見されていない植物のことである。」という名言もあるように、行間や余白の存在を侮ることはできないと思う。」

絵のヒント 2.2週（低学年の場合は、ヒントではなく、ただのカットとして見てください）



★科学は記述から始まる（感）

長文 2.3週 me

1 科学は記述から始まる。現象をコトバで記述する。ある現象とあるコトバが厳密に一対一に対応しているならば、誰が現象を記述しても同じ記述になるはずだ。

ところが、どっこい、そうはうまくゆかない。2 そのことは、記述から現象を再現してみればわかる。

「白馬にまたがってやってきたのは、素敵な王子様だった」

この記述から現象を再現してみることはできるけれども、人によって少しずつ異なった情景を再現するに違いない。3 それでもまだ、白馬とか王子様とかの自然言語には、ある程度の共通了解があるので、キリンにチンパンジーがまたがっているような情景を思い浮かべる人はいない。

（中略）

コトバの共通了解について、深く考えたのは、スイスの言語学者のソシュール（一八五七～一九一三）である。

4 ソシュールはまず、コトバの表記はいい加減であると言う。イヌのことをイヌと呼ぶのは適当に決まったのであって、別にさしたる理由があるわけではない。別の表記、たとえば、イコでもイポでもよかったのだ。それが証拠に英語ではｄｏｇという。5 これをコトバの（表記に関する）恣意性と言う。この話は誰にでもよくわかる。

しかし、コトバの本当の恣意性はもっと深いところにある、とソシュールは言う。

世界は連続的に変化する。我々はそれを適当に切り取って、コトバで言い当てようとする。6 コトバによる世界の切り取り方には根拠がない。これがソシュールの主張である。

これはちょっとわかりづらいかも知れない。多くの人は、世界にあらかじめ何らかの実体があって、それに名前をつけていると思っているからである。

7 それに対して、ソシュールは次のような主張をしたのだ。たとえば、イヌとかネコとかの実体が、あらかじめ世界にあって、それに対してイヌとかネコとかの名前をつけているのではなく、イヌとかネコとかの名前がつけられて、初めて、イヌとかネコとかの実体があるかのように見えるのだ。

8 やっぱりわからない？　それではこういう例はどうだろう。日本では虹は七色である。色は可視光線の波長によって、徐々に変化する。それを七つに分断する根拠はない。しかし、七色あると言われて見れば、七色に分かれて見える。

9 だから、虹の色が二色であるという言語があれば、その言語を使っている人には虹は二色に見えるのである。実際にリベリアのバッサ語では、虹の色は二色であるという。

（中略）

0 コトバが世界にあらかじめある実体に、名前をつけただけのものでないことは、次のようなことからも理解できるかも知れない。

我々が人にコトバを教えるのに何をするかと言えば、実物を指さして、コトバを言うのである。たとえば幼児に教える時に、犬を指さしてワンワンと言う。何度か繰り返して教えると、幼児は見知らぬ犬を見ても、ちゃんとワンワンと言うようになる。もっともワンワンというコトバしか知らないと、猫を見てもタヌキを見てもワンワンと言うかも知れない。

幼児は、犬の範例をいくつか見て、ワンワンというパターンを作り上げる。最初は猫もワンワンのパターンの中に入っているが、大人にそれはニャンニャンだよ、と言われて、ワンワンのパターンを修正する。だからワンワンというパターンは、現物を見ながら他人とのコミュニケーションを通して、構成されるのだ。

個々の犬は確かに世界に実在するだろう。しかし、ワンワンというパターンは、幼児と無関係に世界に実在するわけではない。科学は記述なしには成立しない。だから科学はパターンが人によって異なるのはあまりありがたくない。そこでパターンを固定しようと努力することになる。我々の日常の世界では、コミュニケーションが成立すれば、イヌとは何か、ということが定義できなくとも、別に問題はない。しかし科学は、できることならばコトバを厳密に定義できるものにしたいのだ。しかし、今話したように、イヌというパターンが世界の中に実体として実在しているかどうかは非常に疑わしい。それは多分、人間の心の中に何らかのパターンとしてあるに違いないのである。

（池田清彦『科学はどこまでいくのか』より）

課題 メギ 2.3週
★科学は記述から始まる（感）
今週は感想文の課題です。
解説 2.3週

実体があるからコトバが生まれるのではなく、コトバがつけられるからその実体があるかのように見えてきます。

京都大学の霊長類研究所がサルの調査をしているとき、それぞれのサルに名前をつけました。その結果個体識別が容易になり、サル社会の研究が大いに進みました。海外ではサルに名前をつけるというような発想がなく、個体を識別して研究するという方法が確立していませんでした。そのため、海外の研究者の中には、「日本人はサルを個体識別する特殊能力がある（サルに近いから。おいおい）」と考えた人もいたようです。

虹を七色に見る言語と二色に見る言語とがある、というような例は、ほかにもいろいろありそうです。

コトバがあることによって世界の認識が豊かになる反面、コトバによってそのコトバで表わされたもの以外は見えなくなってしまうこともあります。雑草でも名前を知ると親しみがわき、道端で見かけると「やあ、チカラシバ君、元気そうだね」と話しかけたい気になります。しかし、逆に、コトバに慣れてしまうと、「なんだ、チカラシバか」とコトバでかたづけてそのもののありのままの姿を見なくなってしまうようにもなります。

解説のつづき 2.3週

第一段落は要約。その要約に続けて「言葉を厳密に使うことは大切だ。」という意見。

第二段落はその理由と体験実例。「その理由は第一に、曖昧な言葉では誤解を招くことがあるからだ。」一つの言葉から受けるイメージは人それぞれであるため、曖昧な表現では意思の疎通がうまくできない場合があります。友達との会話でも言いたいことがうまく伝わらなかったり、とんでもない誤解をしてしまったりすることがあるでしょう。そんな話を書いてみましょう。

第三段落にもう一つの理由とデータ実例。「その理由は第二に、厳密な言葉で表現すれば誰にでもわかりやすいからだ。データによると携帯電話の加入台数は2002年12月末で73,514,100台となっているが、言葉だけが頼りのコミュニケーションではますます言葉を厳密に使うことが望まれるだろう。」

第四段落は、反対意見への理解と名言の引用。「確かに曖昧な言い方をする方がふさわしい場面もあるだろう。しかし、「すべてに効くという薬は、何にも、たいして効かない。」という名言もあるように、厳密な言い方をする方が誤解がなく、わかりやすい。」

絵のヒント 2.3週 （低学年の場合は、ヒントではなく、ただのカットとして見てください）

○それにしても、五億冊というのは

長文 2.4週 me

それにしても、五億冊というのはおどろくべき数字である。世界広しといえども、これだけの量の本がつくられ、そして消費されている国は、そうたくさんはない。おそらく、日本人は、世界中で最もよく本を読む民族なのである。

そして、つくられ、消費される本の量以上に注目すべきことは、このように大量の書物が日本では家庭の中にまでとけこんでいるという事実である。四人家族で年に十二冊、五年で百冊、とにかくちょっとした「蔵書」が、たいていの家庭でできあがっているのだ。

もちろん、西洋の家庭にも多少の書物がないわけではない。しかし、わたしの見たかぎりでは、ふつうの家庭の場合、書物はたとえば暖炉のうえに数冊の小説がのっている、という程度のものであって、何十冊も何百冊もが本棚を埋めているのは、かなり知識人の家庭にかぎられている。

実際、家庭用の本棚をこんなに多種類とりそろえて家具売り場で売っている国は、世界でおそらく日本だけだ。アメリカでもヨーロッパでも、もし家庭用の本棚というものがあるとすれば、せいぜい、サイドボードぐらいのものであって、数十冊を収容することなど、とうていできそうもない。本棚は、よほど特殊な場合は別として、家庭の標準備品ではないのである。

ところが、日本の家庭にはたいてい本棚がある。規模の大小は別として、ともかく「蔵書」がある。たとえば書斎はなくても、廊下のつきあたりとか居間の壁ぎわとかに本棚があり、全集ものがならんでいる。それが平均的な日本の家庭の風景なのだ。書物のない家庭は日本にはない。

これと対照的に西洋の家庭で気がつくのは、やたらに大型のグラフ雑誌などがゆきわたっているという事実だ。どこの家に行っても、アメリカなら、たとえば『ライフ』のような雑誌が居間の机の上に、必ずといってよいほど積み重ねてある。しかし、それは日本の家庭ではあまり見かけない風景だ。事実、日本のグラフ雑誌は、だいたいお医者さんや床屋さんの待合室の備品であって、家庭の備品にはなりにくいのである。

それでは、書物を備品とする日本の家庭とグラフ雑誌を備品とする西洋の家庭とは、どうちがうのだろう。第一にいえることは、グラフ雑誌がその読まれ方、あるいは見られ方において集団的であるということだ。居間のソファに腰をおろして、主婦がグラフ雑誌を開いているとき、夫や子どもは、それに「参加」することができる。グラフは、一種の絵本のようなものだから、それをのぞきこんでいっしょに見ることができるのだ。ちょうどそれはテレビを見ているようなもので、集団的なものである。

だが、書物となると、そういうわけにはゆかない。書物はひとりで読むものである。のぞきこんでいっしょに読むことは難しいし、第一、そんなことをされたら落ち着かない。たとえすぐそばにだれかがいても、読書というのは孤独な個人の行為なのである。

だから、日本の茶の間では、たとえば、主人が経営学の本を読み、主婦は文学全集を、子どもはマンガを、それぞれに黙って読んでいる、といったような風景が出現する。一冊のグラフ雑誌をかこんで、家庭の全員が集団的になにかを見るのではなく、家族のそれぞれが、それぞれの本を通じて、それぞれの世界に没入している――それが日本の家庭における読書風景なのだ。

いささか飛躍するようだが、これはことによると、日本の住居に個室がないことと関係しているのかもしれない。どこにいても、家族と顔をつきあわせていなければならないのだから、せめて本でも読んで、自分だけの精神の個室をつくりたい、という欲求が生まれるのである。ひとりひとりが個室をもっている西洋人が、居間のグラフ雑誌をかこんで集団的な世界をたのしむのに対して、もともとがべったりと集団的な日本の家庭では、書物によって、個室的な世界を求めようとするのだ、といってもよい。いつだったか、三畳ひと間に六人というひどい住宅環境を紹介するテレビ番組を見ていたとき、この六人の家族が、みな肩を寄せあって、それぞれに本を読んでいた情景にわたしは打たれたことがある。

現実に個室が十分でないとき、人は、心理的な個室を、読書という方法で手に入れることができるのである。

（加藤秀俊「暮しの思想」）

課題 メギ 2.4週　★清書（せいしょ）

４週目は清書です。

★たしかブレーズ・パスカル（感）

長文 3.1週 me

二番目の長文が課題の長文です。

1 顔パスという言葉がある。「おれだ」「よし」という阿吽の呼吸で、本来は規則として処理するところを当人どうしの個人的な関係で処理する方法である。なれ合いというと聞こえは悪いが、人間どうしの信頼関係を基礎にしている点で最も確実な方法とも言える。2 現代の法律や規則万能の社会では、このような人間の信頼関係に基づいた対応の仕方がもっと見直されてもよいのではないだろうか。

　そのための第一の方法は、相手を信じるだけの心の広さを持つことだ。3 信頼するということは、相手に自分をゆだねることである。場合によっては、自分が大きな損失を被ることもある。それにもかかわらず、相手にすべてを任せて信頼する。そういう決意があるからこそ、相手も自分を信頼してくれる。4 ジャン・バルジャンは、自分を信じてくれた老司教を裏切った。しかし、翌朝憲兵に連れられてきたジャンに、司教は、「その銀の食器は私が与えたものだ」と告げる。このように、相手の善なる心に対する絶対の信頼が、人間らしい心をもとにした社会の基礎となる。

5 また、第二には、そのような人間どうしの信頼を支えるだけの社会の一体性を作ることだ。日本の社会の治安のよさは、世界の中でも際立っている。タクシーの中へ置き忘れた財布は、ほぼ確実に戻ってくる。6 日本人にとっては当たり前のように見えるこのようなことが、世界ではきわめて稀なことなのである。そういう社会が築かれたのは、日本が一つの民族、一つの言語、一つの文化を持った社会だったからである。7 異なる民族や文化と共存することはもちろん大切だが、それは日本の社会の中に異なる民族や文化が異質なまま広がっていいということではない。

　8 法と正義に基づいて判断するという考えは、確かに人類が長い歴史の中で勝ち取ってきた権利だ。だからこそ、この考えは世界のどこでも通用するグローバルな思想となっている。しかし、そのグローバリズムは、日本のように互いの信頼関係をもとに成り立ってきた社会では、人間の心を持たない冷たい機械のような対応に見える。9 大岡越前守が日本人に人気があるのも、人間の心の温もりを裁き方の中に生かしたからだ。顔パスで交わされるものは、単なる顔ではなく、互いの善意への信頼なのである。0

（言葉の森長文作成委員会　M）

長文 3.1週 meのつづき

1たしかブレーズ・パスカルだったと思いますが、大体次のようなことを申しました。

――病患は、キリスト教徒の自然の状態である、と。

2つまり、いつまでも自分のどこかが具合が悪い、どこかが痛むこと、言いかえれば、中途半端で割り切れない存在である人間が、己の有限性を染々と感じ、「原罪」の意識に悩んで、常に心に痛みを感じているのが、キリスト教徒の自然の姿だと申すわけなのでしょう。3まあ、そういうふうに解釈させてもらいます。

これは何もキリスト教徒に限らず人間として自覚を持った人間、すなわち、人間はとかく「天使になろうとして豚になる」存在であり、しかも、さぼてんでもなく亀の子どもでもない存在であり、4更にまた、うっかりしていると、ライオンや蛇や狸や狐に似た行動をする存在であることを自覚した人間の、憤然とした、沈痛な述懐にもなるかもしれません。

恐らく「狂気」とは、今述べたような自覚を持たない人間、あるいはこの自覚を忘れた人間の精神状態のことかもしれません。5あえてロンブローゾを待つまでもなく、ノーマルな人間とアブノーマルな人間との差別はむずかしいものです。気違いと気違いでない人間との境ははっきり判らぬものらしいのです。まず、その間のことを忘れてはならず、心得ていたほうがよいかもしれないのです。6我々には、皆、少々気違いめいたところがあり、うっかりしていると本物になるのだと、自分に言い聞かせていないと、えらい「狂気」にとりつかれます。また、そういうことを知らないでいると、いつのまにか「狂気」の愛人になっているものです。

7天才と狂人との差は紙一重だと、ロンブローゾは申しているわけですが、天才とは、「狂気」が持続しない狂人かもしれませんし、狂人とは「狂気」が持続している天才かもしれませぬ。

しかし、人間というものは「狂気」なしには居られぬものでもあるらしいのです。8我々の心のなか、体のなかにある様々な傾向のものが、常にうようよ動いていて、我々が何か行動を起す場合には、そのようよ動いているものが、あたかも磁気にかかった鉄粉のように一定の方向を向きます。9そして、その方向へ進むのに一番適した傾向を持ったものが、むくむくと頭をもたげて、まとまった大きな力のものになるのです。そのまま進み続けますと、だんだんと人間は興奮してゆき、ついには、精神も肉体もある歪み方を示すようになります。0その時「狂気」が現れてくるのです。幸いにも、普通の人間のエネルギーには限度はありますし、様々な制約もありますから、「狂気」もそう永続はしません。興奮から平静に戻り、まとまって、むくむく頭をもたげていたものが力を失い、「狂気」が弱まるにつれて、まとまっていたものは、ばらばらになり、またもとのような、うようよした様々な傾向を持つものの集合体に戻るのです。そして、人間は、このようよした様々なものが静かにしている状態を、平和とか安静とか正気とか呼んで、一応好ましいものとしていますのに、この好ましいものが少し長く続きますと、これにあきて憂鬱になったり倦怠を催したりします。そして、再び次の「狂気」を求めるようになるものらしいのです。この勝手な営みが、恐らく人間の生活の実態かもしれません。

酒を飲んで酔った人々の狂態を考えてごらんなさい。エネルギーはその人の極限にまで拡大され、様々な制約はまひ感によって消されます。ですから、あのような「狂気」の饗宴は開かれるのです。酔漢の狂態を鎮めるのには、彼を昏睡させるか、あるいは狂態の結果として生じた無理は簡単には通らぬということを何かの力で示すかするより外にしかたがないことがしばしばあります。しかも、正気に戻った酔漢は、その後少しばかり正気の期間が続きますと、何となく倦怠感を覚え、「狂気」への郷愁に駆られて、またしても酒を求めるようなことをいたします。

我々が正気だとうぬぼれている生活でも、よく考えてみれば、大小の「狂気」の起伏の連続であり、「狂気」なくしては、生活は展開しないこともあるということは、奇妙なことです。

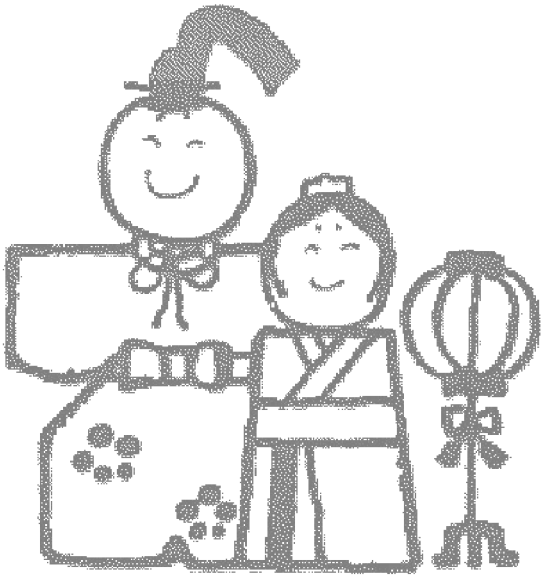
要は、我々は「天使になろうとして豚になりかねない」存在であ

長文 3.1週 meのつづき

ることを悟り、「狂気」なくしては生活できぬ存在であることを悟るべきかもしれません。このことは、天使にあこがれる必要はないとか、「狂気」を唯一の倫理にせよとかいう結論に達すべきものでは決してありますまい。むしろ逆で、豚になるかもしれないから、豚にならぬように気をつけて、なれないことは判っていても天使にあこがれ、誰しもが持っている「狂気」を常に監視して生きねばならぬという結論は出てきてもよいと思います。「狂気」なしでは偉大な事業はなしとげられない、と申す人々もおられます。私は、そうは思いません。「狂気」によってなされた事業は、必ず荒廃と犠牲を伴います。真に偉大な事業は、「狂気」に捕えられやすい人間であることを人一倍自覚した人間的な人間によって、誠実に執拗に地道になされるものです。やかましく言われるヒューマニズム（ユマニスム）というものの心核には、こうした自覚があるはずだと申したいのであります。容易に陥りやすい「狂気」を避けねばなりませんし、他人を「狂気」に導くようなことも避けねばなりませぬ。平和は苦しく戦乱は楽であることを心得て、苦しい平和を選ぶべきでしょう。冷静と反省とが行動の準則とならねばならぬわけです。そして、冷静と反省とは、非行動と同一ではありませぬ。最も人間的な行動の動因となるべきものです。ただし、錯誤せぬとは限りません。しかし、常に病患を己の自然の姿と考えて、進むべきでしょう。

（渡辺一夫『狂気について』より抜粋）

65 64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34 33



課題 メギ 3.1週
★たしかブレーズ・パスカル（感）
今週は感想文の課題です。
解説 3. 1週

内容：人間にはだれにも「狂気」のようなものがある。我々が行動を起こすとき、心や体のなかの様々な傾向のものがある一定の方向を向く。それが進みつづけると歪みが生じ狂気が生まれる。この狂気が収まるともとの平静な状態が生まれるが人間はいずれ平静な状態に飽きてふたたび狂気を求める。狂気は否定するものではなく、狂気を反省する自覚が必要だ。

解説：例えば、食事の例で考えると、いつも同じものばかり食べていると、だんだん飽きてきます。たまには変わったものを食べたいと思い、食べだすと止まらなくなり、おなかをこわしてまたもとの食事に、ということがよくあります。（あるかなあ）

勉強でもスポーツでも同じです。試験や試合のように勝ち負けを決めるときには、ふだんの穏やかな練習と違って、真剣にがんばらなければなりません。この真剣さが狂気に近いものになることもありますが、本当の狂気になって、反則をしたりカンニングをしたりしてはなりません。

人間にはだれにも狂気があります。狂気というと言葉がきついようですが、言い方を変えれば「変化を好む心とやりすぎる傾向」とでも言えるでしょう。偉大なことで、この狂気なくして完成したものはほとんどありません。エジソンが電球を発明したとき、フィラメントの材料を何千種も試験してやっと日本の竹を炭化させたものが最良だという結論にたどりつきました。途中で社員のひげも材料として試してみたそうです。（笑）このへんは狂気というよりもジョークに近いかもしれません。

しかし、このような狂気も、その裏に冷静な自覚と反省がなければ単なる狂気で終わってしまいます。エジソンの狂気を支えたものは、「いい材料さえ手に入れば電球は必ず成功するはずだ」という理性的な見通しでした。この見通しがあるからこそ、度重なる失敗にもくじけずに実験を進めたのです。

感想文の意見の中心は、「狂気の大切さ」または「冷静と反省の大切さ」になるでしょう。「人間には、狂気というのもが必要だ。その理由は二つある。……」というかたちで展開していくといいでしょう。

解説のつづき 3. 1週

第一段落は要約。その要約に続けて、「人間には狂気というものが必要だ。」という意見。（反対に「冷静に判断することは大切だ。」という意見でもいいです。）

第二段落はその理由と体験実例。「第一の理由は、狂気と呼べるような集中力がなければ何かを成し遂げることはできないからだ。」

第三段落にもう一つの理由とデータ実例。「第二の理由は、平凡な毎日では退屈してしまうからだ。」ストレス解消法などのデータ実例を挙げます。

第四段落は、反対意見への理解と名言の引用。「確かに冷静に判断することも大切だ。しかし、「行動するためには、多くのことに無知でなければならない。」という名言もあるように、何かを成し遂げるためには狂気も必要だと思う。」

絵のヒント 3.1週 （低学年の場合は、ヒントではなく、ただのカットとして見てください）

★日本人が、淡泊であるかわりに（感）

長文 3.2週 me

1 日本人が、淡泊であるかわりに持続力に欠けていると言われるのも、生活感覚に左右されているところがすくなくないのではあるまいか。うるさいことは嫌いだという。ごてごてしているのはおもしろくないと感じる。

2 こういう傾向が言語に影響しないはずはない。こまかいことは省略してしまう。それがわからぬのは野暮だとして相手にしない。のけもの扱いされるのは誰しも好むところではないから、お互いに以心伝心の術に長ずるようになる。**3** 道筋を飛ばして結論を出す。結論は相手の想像に委ねて、さりげない話でお茶をにごす。ありのままをくどくどのべるのは興ざめだとされる。

そういう淡泊好みの通人たちが考えだした詩型が和歌であり俳句であって、短いことでは世界に類がすくない。**4** ことに大昔から確立している和歌の形式は、日本人の感性、言語、思考を決定するほどの力をもってきたように思われる。

その妙手たちに比較的女流が多かったことも、またおどろくべきことである。**5** ヨーロッパの文学の歴史を見ると、文学史そのものが短いこともあるけれども、三、四百年前の時代に女流詩人の名を見いだすことは困難であろう。ところが、わが国では千年ちかい昔でも、女性は男性と肩を並べて名歌を数多く残している。**6** ことに日本の言葉が花と開いた平安朝の文学は実質的に女流文学であった。そういう古い時代に、こういうことがほかの国で起こっているだろうか。日本語全体に女性的性格がつよいことは認めてよい。

7 女性的言語が持久性のつよい長編詩に結晶しないで短詩型文学を生んだのは、やはり風土的因子によるものと考えられる。さらりと流す叙情が尊重される。その女性的性格にいくらか反発したらしく思われるのが、俳句というさらに短い詩である。**8** 和歌が仮名言葉中心であるのに、俳句では漢語の比重が大きい。

そういう和歌と俳句の相違はありながらも、実によく似ているのは、言葉のいわゆる論理に背をむけていることである。感覚的に全体を直感で把握する。

目に青葉　山ほととぎす　はつ鰹　（素堂）

9 この句の表現しようとしているものを理屈で説明しようとすればおそらく何十枚もの文章を必要とする。それでも決して言い表わ

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01

せぬものを、この中に凝縮させている。論理を超える論理があるからだ。

0 「言ひおほせて何かある」……そう芭蕉は言っている。完結した表現、整いすぎた言葉は詩にならないことを、これほど端的にのべたものはすくない。「言ひおほせ」ないためには論理でも何でも犠牲にしてかえりみない。

66 65 64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34

課題 メギ 3.2週
★日本人が、淡泊であるかわりに（感）
今週は感想文の課題です。
解説 3. 2週

「ごてごてしたものよりもあっさりしたもの」「理屈よりも直感」というのが日本人の美意識です。絵でも音楽でも食事でも、日本のものは全体に淡泊です。欧米の人にとっては、この淡泊さは理解しがたいものがあるようです。「古池や蛙飛び込む水の音」という俳句を欧米人に説明しても「だから、なんなんだ」と言われるだけでしょう。

意見は、「理屈と直感」を対比させて考えてみましょう。

解説のつづき 3. 2週

第一段落は要約。その要約に続けて「理屈ではなく直感に訴えようとする日本的なコミュニケーションの取り方はよいと思う。」という意見。

第二段落はその理由と体験実例。「その理由は第一に、相手の言いたいことを読み取ろうとすることで思いやりの心が育つからだ。」（「理由」というキーワードが文中に入らない場合は括弧書きで入れておきましょう。）

第三段落にもう一つの理由とデータ実例。「その理由は第二に、短い言葉から想像を広げることで感受性が豊かになるからだ。」効果的に短い言葉を使うということで、企業の宣伝費のデータ実例が使えそう。

第四段落は、反対意見への理解と名言の引用。「確かに物事を理屈で考えることも必要だ。」しかし、「辞書のような人間になることではなく辞書をうまく使えるような人間になることが勉強の目的である。 」という名言もあるように、短い言葉を効果的に使うことが大切だ。

絵のヒント 3.2週 （低学年の場合は、ヒントではなく、ただのカットとして見てください）

★日本のある会社が香港で（感）

長文 3.3週 me

1 日本のある会社が香港で現地の人間を採用しようと求人広告を出したという。

「日本語のできる人を求む」

すると瞬く間に、「我こそは日本語が達者である」と胸を張ってたくさんの香港人が押しかけた。2 会社側はおおいに喜んで、さっそく面接をしてみたが、実際にはほとんどの人が、「コンニーチハ、サヨナーラ」といった挨拶程度しか日本語を話すことができなかったそうである。

この話を聞いたとき、私は「香港の人はすごい」と感心したものだ。3 何より語学ができるという認識が、日本人とずいぶんかけ離れているではないか。もし日本人が、「あなたは英語が話せますか」と問われたら、たいがいの人は、「少しだけ」と答えるであろう。4 この「少しだけ」が「はい、話せます」に変わるまでには長い道のりがあって、よほど流暢に、アメリカ人もびっくりするほどペラリペラリとしゃべれない限り、「話せます」とはとうてい答えられない。5 恥ずかしいという理由もあるだろうが、もし「話せます」と答えた場合、その責任を自分が取らされたうえ、理解できなかったらどうしようという不安が、一瞬、脳裏をかすめるからである。

そこで、「まあ、そこそこ話せるな」と内心自負している人も、「少しだけ」と答えておく。6 そのほうが無難である。これが日本流「謙譲の美徳」　なのである。

ところが香港のような国際貿易都市で生きていくためには、そんなのんきなことは言っていられない。7 語学が堪能でなければ給料のいい仕事にはありつけないし、語学のみならず、自己PRの上手にできない人間は、出世も望めないという社会の仕組みが出来上がっているのだろう。つまり、少々はったりをきかせても、「できる」と先に手を挙げたほうが勝ちなのである。

8 もっともこれは、今から十年ほど昔の話だから、やや時代遅れの認識だと言われるかもしれない。今や日本の若者のなかにも、臆病がらずに「はい、話せます」と答える人間が増えている。しかし、私を含めたおおかたの日本人の心のなかには、良かれ悪しかれ「謙譲」を「美徳」とする意識が残っているような気がする。

9 学生時代、先輩からこんな手紙をもらったことがある。「君はいつも、もうこれ以上は落ちる心配がないというところまで自分を卑下する癖がある。そうしておけば安心なのだろう。人から過大な期待をかけられて失敗するよりも、最初は期待されないで、だんだん評価が上がっていくほうが得策だと思っているのかもしれない。0 しかし、それは決して正当な自己評価にはつながらない。一見、謙虚に見えるけれど、それでは進歩がないからだ」

なんでこんなに厳しい批判をされなければならないんだと憤慨しながらも、同時に、自分でも気づいていなかった性格の新しい側面を、みごとに分析され、見せつけられたのには驚いた。（中略）

日本人は（と、こういう枠組みを作ることがそもそもいけないのだが）、対する人間の出方次第で自分の位置や行動を決めるきらいがある。だからこそ、なるべく早く、目の前にいる人がどういう人間なのかを判断、整理、類別しなければならない。これはもう、持って生まれた性癖のようなものである。「あの人って、誰々に似てると思わない」というのも日本人の得意な台詞である。私個人も気がつくとしょっちゅう言っている。

かくして人は、自分の立場を確保するために他人を型にはめたがり、その作られた型からはみ出て「打たれる杭」にならないよう、自分自身は「謙譲の美徳」を利用する。

考えてみると、つくづく日本には、個人の秘めたる才能をできるだけ伸ばさないようにする基盤があることに気がついた。

では、どうすればいいのでしょう。難しい問題です。何しろ、他人をけなす人は多くても、おだて上手が少ない国だから。

「できる、えらいぞ、ほれ、ガンバ」

残る手立ては、自分で自分をほめちぎり、なんとか怠けている細胞をたたき起こす以外にない。

（阿川佐和子『おいしいおしゃべり』から）

課題 メギ 3.3週
★日本のある会社が香港で（感）
今週は感想文の課題です。
解説 3. 3週

内容：日本の会社が香港で、「日本語のできる人」を採用しようとしたところ、片言しか喋れない人も含めて多くの応募があった。これに比べて日本人には謙譲を美徳とする意識が残っている。日本人は他人を型にはめたがり、また自分も型からはみ出ないように謙譲の美徳を利用しているのではないか。

解説：日本人の「謙譲の美徳」「相手を枠にはめる見方」「長所を伸ばさない文化」などについて考えてみましょう。これは、身近にたくさんの例がありそうですね。日本では、組織のトップになる人でも自分から進んでという例は少なく、みんなから推薦されて仕方なくというケースが多いようです。みなさんのクラスで役員を決めるときもそうでしょう。クラス対抗のリレー選手を選ぶときでも、足の速い人が立候補するようなことはあまりなく、みんなから、「Ａさんがいい」と言われて仕方なく引き受けるというかたちが多いと思います。身近な例を通して、日本人はもっと自己主張をという意見でまとめてみましょう。もちろん、その反対の意見でまとめてもかまいません。

解説のつづき 3. 3週

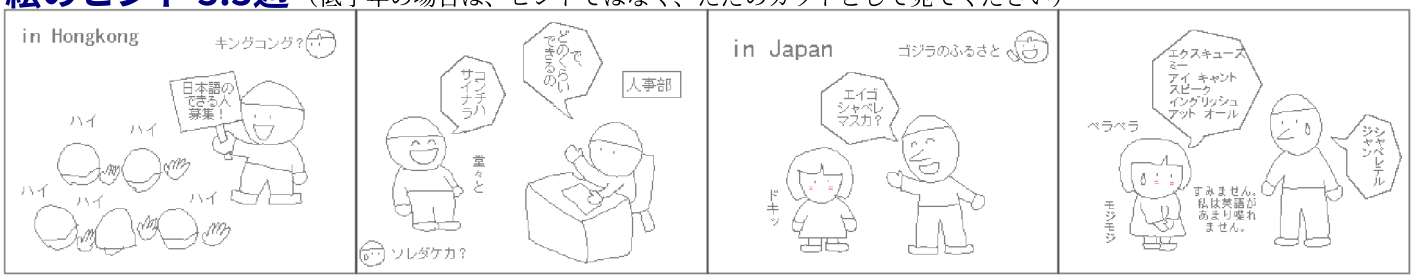
第一段落は要約。その要約に続けて「日本人はもっと自己アピールをしていくべきだと思う。」という意見。逆に「日本人の謙虚さは大事にしていくべきだと思う。」という意見でもいいです。

第二段落はその理由と体験実例。「その理由は第一に、自分をアピールしないと相手に自分のことをわかってもらえないからだ。」

第三段落にもう一つの理由とデータ実例。「その理由は第二に、自分自身が成長しないからだ。いつも遠慮して自分をアピールしないでいると、自分の能力を発揮できる機会を失い、能力に磨きをかけることができない。」データ実例は「仕事の目的」に関するデータが使えそう。「データによると、３０代では、仕事の目的を収入と答えた人の割合が７５％となっている。もっと自分をアピールし、自分の能力を生かしていくことができれば仕事も生きがいにつながるのではないか。」

第四段落は、反対意見への理解と名言の引用。「確かに時には謙虚さも必要だ。しかし、「短所をなくすいちばん良い方法は、今ある長所を伸ばすことである」という名言もあるように、自分の良い面はどんどんアピールしていくべきである。」

絵のヒント 3.3週 （低学年の場合は、ヒントではなく、ただのカットとして見てください）



○人間がこの世に生きて持つ

長文 3.4週 me

人間がこの世に生きて持ついろいろな体験は、人間の最大の教師だ。あることを目的として我々はそれを達成しようと試みる。そして失敗し、また成功する。その経験を、記憶の中で整理して知恵と呼ばれる理解力を得ることによって、類似した次の体験に我々は備える。その累積が何代も何代も続いて巨大なものに達したのが文化である。

技術的な知恵のうち簡単なものは、教育によって容易に伝えることができる。しかし、理論や道具や機械のようなものが複雑になると、それを授ける人受け取る人が限られ、そこに専門家が生まれる。技術的な知恵は専門家にまかせておいていいことがある。

肉体的なもの、心理的なもの、または道徳的、宗教的なものの伝授は、専門家のみで処理できない。乳の飲ませかた、子どもの育てかた、他人との交際の仕方、愛や悲しみの扱い方とその表現の仕方などは、あらゆる人間が、親や教師や先輩から受け取って、自分の生活の実質としなければならない。それ等を体得することは赤ん坊から大人になることであり、言わば動物から人間になることである。

自分と他人との触れ合いかた、自分の内部に起こる欲求や喜びや悲しみの調整の仕方は、人間であることの根本条件につながっているがゆえに、その処理を誤ることは、生存の危機となり、破滅となる。我々の存在の外側にあるものは、特に専門的な知識や技能を必要とするものでない限り、我々はそれに慣れることができる。たとえば自転車に乗ることは、人間を疲労させるものだとしても、人間は、必要なときだけそれに乗り、不必要な時はそれを使わずにいることができる。自転車は我々から離れてそとにあるものであり、我々はそれを必要な時だけ利用する。

しかし、自分の喜びや悲しみ、家族や勤務先の同僚などと接触せずに生きていることはできない。そういう事柄についての生き方の技術というべきものは利口な人間も利口でない人間もが、同じように学び取り、そして毎日を、毎時間をそれの処理に当たらなければならないことである。その処理の仕方として、礼儀とか倫理という一般的なものがあり、さらにより深いところからその種のことについての真理的な安定を得る方法としての道徳、愛憎、恋愛、宗教の教理などがある。

そして我々が「体験」という言葉を、人間の生き方との関係において使うときは、このような体験のことを言う。そして宗教家や教育家が、我々を導くのもまたこのような部分においてである。この部分について、誰でもが自分の体験について何かの判断をしているものである。私の父は、田舎の村の収入役という目立たない仕事をしている人間であったが、何度か私たちに向かって言った。「人生というのは芝居をしているようなものだ。自分の当たった役割りをうまくやる外はない」と。たしか、私のおぼろげな推定では、私の父は村長になりたかったようである。その当時の村長は選挙でなく、前任者や村会議員たちの推薦によって地方の長官から任命されたものであった。父は内気な手固い人間であったので、村長に推挙される機会がなく、収入役で終わった。そのことに対しての不満とあきらめの感情がこの言葉の中に漂っていることを、二十歳ぐらいのとき私は感じた。

（伊藤整「体験と思想」）

課題 メギ 3.4週　★清書（せいしょ）

４週目は清書です。

名言集印刷版 => ウェブ版

1	飽きるということも、一つの能力のあらわれである。
2	悪書を読まないことは、良書を読むための最初の条件である。
3	朝の来ない夜はない。
4	暗殺者は世界の歴史をかえなかった。
5	家とは、外から見るためのものではなく、中で住むためのものである。
6	家の批評ができるのは、建築家ではなくそこに住む人である。
7	いかに飽きずに続けるかではなく、飽きることと続けることとをいかに両立させるかということが大切だ。
8	英雄が歴史を作るのではなく、歴史が英雄を作る。
9	多すぎる休息は、少なすぎる休息と同じように疲れさせる。
10	限られた人生で、大事なことは、「何をするか」ではなく「何をしないか」である。
11	過去と他人は変えられないが自分と未来は変えられる。
12	カメラマンは、レンズのほこりを払うまえに目のほこりを払わねばならない。
13	今日という日は、明日という日の二日分ある。
14	記録は破られるためにある。
15	議会に期待しない国民は、議会を非難する資格を持たない。
16	経験は、最良の教師である。
17	行動するためには、多くのことに無知でなければならない。
18	幸福な家庭は、みな似ているが、不幸な家庭は、いずれもそれぞれに不幸である。（トルストイ）
19	子供は大人を小さくしたものではなく、それ独自の価値を持っている。
20	才能とは自分自身を信ずる能力である。
21	寒さに抵抗するいちばんよい方法は、寒さに満足することである。
22	寒さにふるえた者ほど、太陽の暖かさを感じる。
23	雑草とは、まだ、その美点が発見されていない植物のことである。
24	勝負に勝つためには、苦手をなくすことよりも、得意技を持つことである。
25	時間を作る第一の方法は、急ぐことではなく、どこに時間を使うか考えることである。
26	自国に対する賞賛が他国に対する軽蔑によって支えられているのであってはならない。
27	辞書のような人間になることではなく辞書をうまく使えるような人間になることが勉強の目的である。
28	自分の心のうちに持っていないものは何一つ自分の財産ではない。
29	上手なプレーをしたときよりも、悪いプレーをしたときの態度が大切である。
30	人生に意味はない。あるのは欲望だ。欲望があるから、バラはバラらしく花を咲かせている。
31	すべてに効くという薬は、何にも、たいして効かない。
32	鋭い刃物ほど安全である。
33	精読とは、ゆっくり読むことではなく、同じものを繰り返して読むことである。
34	戦争では、どちらの側が勝利を宣言しようが、勝者など存在しない。全員敗者である。
35	存在するものには、良いとか悪いとかを言う前に、すべてそれなりの理由がある。
36	大切なのは、健康らしい外見ではなく、健康自身である。
37	正しいものは、悩みも多い。
38	他人から尊重されるためには、まず自分で自分を尊重できなければならない。
39	短所をなくすいちばんよい方法は、今ある長所を伸ばすことである。
40	脱皮できない蛇は滅びる（ニーチェ）
41	知識がはしごを作ったのではなく、二階に上がりたいという熱意がはしごを作ったのだ。
42	強くなければ寛大ではありえない。
43	哲学者たちは、世界をさまざまに解釈してきた。しかし、大切なのは、解釈することではなく、変革することである。

44	できあがった規則をなんとか守ろうとすることよりも、実態に合わせて規則を変えていくことが、真に規則を生かす道である。
45	出口のないトンネルはない。
46	デモクラシーとは、奴隷にも主人にもなりたくないということである。（リンカーン）
47	トランプが生きているのは、それが実際のプレーに使われているときである。
48	読書とは、自分の頭で考えることではなく、他人の頭で考えることである。（ショーペンハウエル）
49	読書は人間を豊かにし、討議は人間を役立つようにし、文章を書くことは人間を正確にする。
50	何事もしない者だけが失敗もしない。
51	なまけ者であることを批判するよりも、人間とはもともとそうしたものだというところから出発するべきだ。
52	人間というものは、結果から事のよしあしを判断する。
53	人間は強くなるほど素直になれる。
54	人間は、求めているかぎり迷うものだ。
55	始めることも大切だが、やり遂げることの方が、もっと大切である。
56	花はだれが見ていなくても咲いている。
57	人が旅行するのは、到着するためではなく旅行するためである。
58	人はその制服のとおりの人間になる。（ナポレオン）
59	人は食べるために生きるのではなく、生きるために食べるのである。（ソクラテス）
60	一人の敵も作らない者は、一人の友も持たない。
61	不幸な人は、どのような考えの中にも不幸の理由を見出す。
62	毎朝、歯をみがくのに、一週間分まとめて一挙にという人はいない。
63	短いスピーチが長いスピーチよりも難しいのは、言い直しがきかないからである。
64	道は近くても、行かなければ到達しない。
65	未来には、ひとりでにできる未来と、自分で作る未来との二つがある。
66	未来を予測する最も確実な方法は、未来を創造することである。
67	民主主義は、教科書には書かれていない。
68	名医ということばがあるかぎり、医学は科学ではない。
69	持ち物を気にするのは、実力に自信がない証拠である。
70	最も速い速読の秘訣は、不要なものは、読まないということである。
71	もともと地上に、道はない。歩く人が多くなれば、それが道になる。（魯迅）
72	問題とは、そこにあるものではなく、自分が作るものである。
73	やさしさが、性格の弱さであってはならない。
74	夢があるから行動するのではなく、行動するから夢が生まれる。
75	夜明け前が最も暗い。
76	良い馬は、長い坂を欲する。
77	良い友人を得たければ、まず自分が良い友人でなければならない。
78	弱い人は、率直（そっちょく）ではありえない。
79	ライオンは、一匹のウサギを倒すためにも、全力を尽くす。
80	理想に到達するための手段はまた、理想への到達を阻（はば）む障害でもある。
81	ロバが旅に出たところで、馬になって帰ってくるわけではない。
82	私たちの幸福が、ほかの人びとの不幸に支えられているのであってはならない。
83	私たちの人生は、私たちが費やしただけの価値がある。
84	悪いことそのものがあるのではない。時と場合によって悪いことがあるのである。

データ集印刷版 => ウェブ版

いきたい

行きたい旅行先（日本交通公社　1997年） (19)

1位	オーストラリア	57.2%
2位	ハワイ	48.4%
3位	カナダ	47.6%
4位	スイス	45.6%

いきたい

行きたい旅行先（2010夏地球の歩き方調査） (213)

	海外	国内
1位	韓国	北海道
2位	ハワイ	沖縄
3位	アメリカ	京都

いちにち

一日あたりの勉強時間 (199)

2009年財団法人日本青少年研究所データより
中高生の勉強時間
●日本/8時間
●中国/14時間
●韓国/10時間

いっかげ

一ヶ月に読んだ本（雑誌・漫画を除く）（毎日新聞社） (5)

小学生高学年	5.6冊
中学生	1.9冊
高校生	1.3冊

いっかげ

一ヶ月の小遣いの平均（2005年マネー情報知るぽると） (214)

小学生（低学年）	901円
小学生（中学年）	812円
小学生（高学年）	1122円
中学生	2738円
高校生	5590円

おもなく

主な国の発電量比較（海外電力調査会　1996年） (23)

アメリカ	3,145,892百万KW	水力	8.8%	火力	71.1%	原子力	19.4%
ロシア	956,587百万KW	水力	18.3%	火力	69.2%	原子力	12.5%
日本	906,705百万KW	水力	11.6%	火力	60.7%	原子力	27.5%

おやがお

親が男の子に望む職業２００７ (211)

1位	公務員	１８．３％
2位	スポーツ選手	１６．８％
3位	医者	１０．７％

おやがお

親が女の子に望む職業（クラレ2007） (212)

1位	看護師	15.5%
2位	教師	11.1%
3位	保母	9.8%

かいがい

海外旅行者数（ＰＨＰ　1998年） (30)

日本の年間海外旅行者数は1500万人を突破。海外からの日本旅行者は300万人台。

かいがい

海外旅行者数（2008　法務省） (215)

15,987,250人

かっこく

各国の高校生と父親の関係 (204)

日本青少年研究所、H18年のデータより。
１　父親は私に対して期待が大きい
韓国/67.1%　中国/53.4%　米国/62.1%　日本/24.4%
２　父親は私を一人前の大人として扱っている
韓国/30.8%　中国/44.3%　米国/52.3%　日本/18.7%
３　父親とよく話をする
韓国/31.1%　中国/34.2%　米国/34.9%　日本/38.3%

かっこく

各国の大学進学率 (202)

2004年データ
大学（または大学相当教育機関）への進学率
1位　韓国/89%
2位　フィンランド/87%
3位　アメリカ/82%
33位　日本/54%

がいしょ

外食で食べたいもの（ハウス食品　1996年） (15)

1位	寿司	13.5%
2位	ハンバーグ	9.3%
3位	ステーキ	8.4%

がいらい

外来語の定着度調査における理解度　単位パーセント (45)

バックアップ（７０．６）／ミスマッチ（６９．１）／オンライン（６３．４）／ビジョン（６１．６）／マネジメント（６０．０）／マルチメディア（５９．３）／シミュレーション（５８．３）／マーケティング（５８．１）／リアルタイム（５８．０）／コミュニティー（５７．７）／パートナーシップ（５５．０）／トレンド（５３．０）／ライブラリー（５０．０）／ワークショップ（４８．９）／ダンピング（４８．８）／ベンチャー（４７．５）／オブザーバー（４６．８）／フォーラム（４６．８）／データベース（４５．６）／グローバル（４１．３）／コンセプト（４０．２）／バーチャル（３８．９）／コミュニケ（３６．６）／セクター（３５．０）／ボーダーレス（３２．５）／マクロ（３２．４）／スクーリング（３２．４）／セーフティーネット（３０．９）／モニタリング（２８．９）／コア（２４．７）／ログイン（２３．４）／アイデンティティー（２３．１）／ポテンシャル（２１．１）／グローバリゼーション（１９．３）／タスク（１９．０）／インフラ（１８．９）／ケーススタディー（１８．１）／コラボレーション（１８．０）／グランドデザイン（１４．３）／フレームワーク（１４．０）／イノベーション（１３．６）／キャッチアップ（１３．６）／ノーマライゼーション（１２．２）／サマリー（１１．６）／モラルハザード（１０．５）／インセンティブ（１０．４）／アーカイブ（８．０）／エンパワーメント（５．７）／メセナ（５．７）／タスクフォース（４．９）／ユビキタス（３．９）／エンフォースメント（３．４）
「asahi.com」2003年8月6日

きぎょう

企業の宣伝費（日経広告研究所　1995年） (16)

1位	トヨタ自動車	709億円
2位	花王	492億円
3位	日産自動車	467億円

きぎょう

企業の宣伝費（2008年） (217)

1位	パナソニック	904億円
2位	トヨタ自動車	881億円
3位	本田技研工業	880億円

きゅうじ

９４・５％が新聞読む　読むのは１日２６分（日本新聞協会意識調査2003.10） (95)

調査は昨年１０月、全国の１５−６９歳の男女６０００人を対象に実施、６４・６％が回答した。
印象・評価を尋ねた質問では、計２９項目のうち新聞は「情報源として欠かせない」（５８・２％）「社会への影響力がある」（５５・８％）など１４項目で１位を占めた。

けいたい

携帯電話の普及率 (200)

2009年文部科学省データより
携帯電話の普及率
●小6　3割
●中3　6割
●高3　9割

こどもの

子どもの家庭における手伝い事情 (205)

H11年　総務庁青少年対策本部のデータより

●小学生

決まった手伝いの役割がある/31.7%　決まったものはないが時々手伝いはする/58.6%　殆ど手伝いはしない/9.4%

●中学生

決まった手伝いの役割がある/22.7%　決まったものはないが時々手伝いはする/57.7%　殆ど手伝いはしない/19.2%

こどもべ

子ども部屋の保有率 (129)

文部科学省０２年調査

個室を持っている小２生　男子２５．９％　女子２８．５％

同小６生　男子４４．５％　女子４７．８％

同高２生　男女とも８０％超

小２の個室　テレビ有７割以上　パソコン有２割以上

ごみしょ

ゴミ処理事業費 (198)

※環境庁H6年データより

日本の一人あたりゴミ処理事業費

昭和52年/5,000-

平成6年/17,300-

しきをだ

四季を代表する旬（しゅん）の食材（ミツカン　1996年） (14)

春	1位	タケノコ	53.3%			
夏	1位	スイカ	44.5%			
秋	1位	サンマ	38.5%			
冬	1位	大根	19.5%	2位	ミカン	17.3%

しごとの

仕事の目的（朝日新聞社　1997年） (18)

30代	収入	75%	生きがい	16%
60代	収入	39%	生きがい	45%

しゅうに

収入増と労働時間短縮のどちらを選ぶか（朝日新聞社　1997年） (20)

男性	収入	37%	時短	49%
女性	収入	28%	時短	52%

しょうし

少子化の進行 (42)

我が国の戦後の出生の状況の推移をみると、出生数は、第１次ベビーブーム(昭和22(1947)～24(1949)年)、第２次ベビーブーム(46(1971)～49(1974)年)の二つのピークの後は減少傾向にあり、平成13(2001)年の出生数は117万662人、出生率(人口1,000人当たりの出生数)は9.3となっている(14(2002)年は、推計値で115万６千人、出生率9.2)。

　また、合計特殊出生率(15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、一人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子ども数に相当する。)は、第１次ベビーブーム以降急速に低下し、昭和31(1956)年に2.22となった後、しばらくは人口を維持するために必要な水準(2.1程度)で推移してきたが、50(1975)年に1.91と2.00を下回ると、平成５(1993)年には1.46と1.50を割り、その後も低下傾向は続いている。13(2001)年の合計特殊出生率は1.33であり、11(1999)年の1.34を下回る、過去最低水準となっている。

（総務庁　平成15年版　「高齢社会白書」より）

しょくり

食糧エネルギー自給率（1995年） (28)

日本の一次エネルギー輸入依存度	81.9%
日本の食用農水産物供給熱量自給率	４２%

しょくり

食料供給に不安９割　農水省 (54)

摂取カロリーをもとに算出した食料自給率　４０％

　食料自給率に対して　非常に・ある程度不安を感じる　農業従事者９４％　消費者９０％

あまり不安を感じない

５％　９％

★農業従事者２６６人　消費者１２９４人

しんそつ

新卒者採用で企業が重視した点２０１０ (207)

（日本経済団体連合会2010年4月）

「今春の新卒採用に関する企業アンケート」

選考で重視した点（複数回答）は、コミュニケーション能力が８２％と最多、主体性（６１％）、協調性（５１％）、チャレンジ精神（４８％）と続いた。

じどうは

自動販売機の台数（朝日新聞社　1997年） (21)

日本の自動販売機の台数　544万台　売上6兆6125億円。国民1人当たり年間5万3000円買ったことになる。

清涼飲料水の自動販売機1台の月間電力消費量235キロワット時　全国で清涼飲料水の自動販売機は202万台　使用電力の合計は約100万キロワット　大型の原子力発電所1基分。

じぶんが

自分が出す年賀状 (34)

2001年12月　パイロットの年賀状調査（朝日新聞掲載）

首都圏の20代～60代の男女400人の回答

1位	パソコン利用	38%
2位	電子メール	30%
3位	手製のイラスト・版画・絵手紙	18%

じゅうだ

10代女性のストレス解消法（コニカ　1996年） (8)

1位	カラオケ	16.4%
2位	食べる	7.5%
3位	長電話	5.6%

じゅうだ

10代男性のストレス解消法（コニカ　1996年） (6)

1位	カラオケ	15.3%
2位	テレビゲーム	13.3%
3位	ビデオ鑑賞	8.0%

じょせい

女性が一人で行きづらいところ（日本経済新聞2003年1月25日） (36)

1位	高級レストラン	428名
2位	海外旅行	355名
3位	焼肉店	335名

じんせい

人生の最期を迎える場所
(40)
二〇〇一年人口動態統計による

病院、診療所	８１．２％
在宅	１３．５％
老人ホーム	２％

せいじん

成人女性のストレス解消法（ハピ研）
(226)

1位	好きなものを食べる、外食	38.9%
2位	デザート、菓子などの甘いもの	32.1%
3位	お酒を飲む	28.1%

せかいの

世界の億万長者（2009年フォーブズ　１ドル＝95円で換算）
(218)

１位	ビル・ゲイツ	３兆８千億
２位	ウォーレン・バフェット	３兆５千億
３位	カルロス・スリム	３兆３千億

せかいの

「世界の供給熱量総合食料自給率」
(206)
農林水産省のデータより

●1970年		●2003年	
オーストラリア	206%	オーストラリア	237%
カナダ	109%	カナダ	145%
フランス	104%	フランス	122%
アメリカ	112%	アメリカ	128%
イギリス	46%	イギリス	70%
日本	60%	日本	40%

せかいの

世界人口の動向
(41)
2000(平成12)年の世界の総人口は60億7,058万人であり、2050(62)年には89億1,872万人になるのに対し、総人口に占める65歳以上の人の割合(高齢化率)は、1950(昭和25)年の5.2%から2000(平成12)年の6.9%に上昇している。さらに2050(62)年には15.9%にまで上昇するものと見込まれており、今後半世紀で高齢化が急速に進展することになる（総務庁平成15年版　高齢社会白書より）

せかいの

世界の二酸化炭素排出量の割合（環境庁1994年）
(22)

1位	アメリカ	22.4%
2位	中国	13.4%
3位	ロシア	7.1%
4位	日本	4.9%

せかいの

世界の二酸化炭素排出量の割合（2007）
(220)

１位	中国	20.7%
２位	アメリカ	20.1%
３位	ロシア	5.3%
４位	インド	4.7%

そだてて

育てていて一番癒されるもの
(97)
朝日新聞2004年5月17日付け夕刊5ページ。朝日新聞による調査。一都六県３００人の回答。

１位	ミニ植物	６２％
２位	金魚やメダカ	２２％
３位	微細な水中生物	５％
３位	ゲームキャラクター	５％
５位	育成型おもちゃ	３％
５位	昆虫	３％

だいがく

大学・短大進学率（イミダス1998年）
(25)

18歳人口	173万人
高校卒業者	155万人
大学・短大入学者	80万人
志願率	54%
進学率	46.2%
合格率	71%

だいよん

第4回新入社員のグローバル意識調査
(210)
今年4月に新卒採用（高卒・大卒等問わず）された18歳から26歳までの新入社員を対象にしており、サンプル数は400。今年の新入社員の2人に1人（49%）が海外で「働きたいとは思わない」一方、「どんな国・地域でも働きたい」が27.0%、高い海外志向を持つ層も過去最高。グローバル化に対する意識が両極化している。

海外勤務はリスクが高いから	56.1%
自分の能力に自信がないから	54.6%
海外に魅力を感じないから	44.4%
家族に負担がかかるから	28.6%

てれびを

テレビを見すぎる子　言葉の発育に遅れ（小児科学会）
(74)
１才半健診の子を持つ親１９００人対象回収率７５％
言語に遅れの見られる割合
　子どもの視聴時間
（ａ）４時間未満で家のテレビがついている時間（ｂ）が８時間　を１とすると
　ａ４時間以上ｂ８時間以上　２
　ａ４時間以上ｂ８時間未満　１．２５
　ａ４時間未満ｂ８時間以上　１．５
テレビを見ているとき子どもが指さして親に質問するか
　見ているときに親が内容について話しているグループ　はい７９％
　親がほとんど話しかけていないグループ　はい５６％

にじゅう

20代の独身男女の理想の朝食像（全国味噌工業協同組合連合会　1996年）
(26)

パンなどの洋食系	31.0%
ご飯みそ汁などの和食系	59.0%

にせんさ

２００３年名前ランキング
(47)
男子　１位ユウキ（５９人）２位ユウト（５５人）３位タクミ（４７人）／３０６８人中
女子　１位アヤカ（４６人）２位ハルカ（４４人）３位ナナミ（４４人）／２８５３人中
明治生命　生まれ年別名前調査より

にせんじ

2010年名前ランキング女子（明治生命）
(222)

１位	メイ	69人
２位	ユイ	59人
３位	リオ	56人

にせんじ

2010年名前ランキング男子（明治生命）
(221)

１位	ハルト	８７人
２位	ユウト	82人
３位	ユウマ	５７人

にほんじ

日本人の品格と道徳観
(203)
2006年　インターネットリサーチサービス　gooリサーチ　データより
●日本人が元来持っているもの
「謙虚さ」73.9%
「礼儀正しさ」66.1%
「思いやり」66.0%
●日本人が元々持っていないもの
「個人主義」56.0%
「実力主義」37.8%
「合理主義」36.2%

にほんに

日本における１年間の割りばし使用量
(153)
１年間に日本で使用される割りばしは約２５４億膳。１人あたり１年に２００膳くらい。
これに使われる原木は約２４０万本。
この原木の９７．５％は輸入。（うち９９％が中国から、ほかは東南アジア、チリなどから。）
国産割りばしはわずか２．５％にすぎない。（０３年林野庁データによる）
使用済み割りばし６０００膳をゴミとして処理するのに、費用は千数百円かかるらしい。

にほんの

日本の新しい金持ち（2001年高額納税者週刊現代） (31)

高橋洋二（ユニマットグループ代表）	推定年収184億円	推定資産800億円
宇野康優（有線ブロードネットワークス社長）	推定年収31億円	推定資産142億円
田中剛（レーサムリサーチ社長）	推定年収27億円	推定資産23億円

にほんの

日本のゴミ　リサイクル率
(197)
厚生省のH6年データより
昭和62年のリサイクル率/4.1%
平成6年のリサイクル率/9.1%

にほんの

日本の進学率 (201)
学校基本調査（2009年）データより
1990年/大学進学率24.7%
2009年/大学進学率50.2%

にゅうよ

乳幼児の就寝時刻（厚生省　1997年） (27)
全国の4歳未満の乳幼児の約4割が午後10時以降に眠るという夜型に。

にんげん

人間関係における意識調査　（読売新聞　２００４年） (53)
身近な人とはより緊密なコミュニケーションを求める傾向

夫婦、親子間で本音を話しているか	はい 75%	いいえ 19%
あなたにとって近所づきあいは必要か	はい 78%	いいえ 20%
電子メール、携帯メールの方が気もちを伝えやすいか	はい 28%	いいえ 64%
職場や地域で「飲みニケーション」は必要か	はい 48%	いいえ 48%
自分の子どもを叱れるか	はい 92%	いいえ 6%

ねんかん

年間ゴミ排出量（ＰＨＰ　1998年）
(29)
日本の年間ゴミ排出量は5020万トン。東京ドーム135杯分。

ねんかん

年間ごみ排出量（2003年） (224)
日本の年間ごみ排出量は5160万トン。

へいきん

平均寿命の国際比較（イミダス　1998年）
(24)

1位	日本	男性	77.01歳	女性	83.59歳	(1996年)
2位	イスラエル	男性	75.33歳	女性	79.10歳	(1993年)
3位	中国	男性	66.70歳	女性	70.45歳	(1990-1995年)

べんきょ

勉強嫌い７割超す（文科省　学力テスト・学習意欲アンケート）
(50)
学校以外で勉強を「全く、または、ほとんどしない」　４１％
勉強は好きか「そう思わない・どちらかといえばそう思わない」　７３．５％
対象　全国の高校３年生約１０万５千人

ぺっとお

ペットＯＫのマンションの割合
(49)

２００２年	３４．６％	首都圏で販売された約８８０００戸
２００１年	１９．１％	
１９９８年	１．１％	

ぺっとぼ

PETボトルリサイクル率
(196)
出典はPETボトルリサイクル推進協会（2008年データ）
●2007年　ペットボトルのリサイクル率
日本/69.2%
米国/41.1%
欧州/23.5%

まよった

迷ったら「ビミョー」９６％　文化庁の日本語世論調査（２００５．１～２） (157)
調査は１月から２月にかけ全国の１６歳以上の男女３千人を対象に実施、７３％から回答を得た。

●いいか悪いか判断がつかなかった時に「ビミョー（微妙）」という言葉を使う人　５８％（１０代では９６％超）
●素晴らしいやすごい、おいしいなどの意味で「ヤバイ」を使う１０代　７１％

もらって

もらってうれしい年賀状（パイロット　2011年） (225)

1位	手製・イラスト・絵手紙	64.5%
2位	パソコン等	14.8%
3位	写真年賀状	12.3%
4位	印刷・既成デザイン・ゴム印	2.8%

▼課題フォルダ

（１）課題集○○の山

★印がその週の課題です。★印が二つある場合はどちらを選んでもかまいません。

課題集は、授業のはじまる前までに見ておき、何を書くか決めておきましょう。

小学１、２年生は自由な題名が中心です。小学３、４年生は、決められた題名が中心です。感想文の課題の場合は、その週の長文を読んでから先生の説明を聞くようにしましょう。小学５、６年生の課題は、難しいものが多いので、よく読んで似た話を見つけておきましょう。

言葉の森のホームページにある「生徒ページ」のリンクから、「鳥の村」に入れます。「鳥の村」の「資料室」には、学年別課題の解説などが載っているので参考にしてください。

https://www.mori7.com/tori/

（２）項目表○○の苗

課題集の次のページに項目表があります。

項目表の★印の項目ができるように作文を書いていきましょう。★印の項目が十分にできる人は、◎印の項目もできるようにしていきましょう。

項目ができたところに、項目の説明又は項目のマークを書きましょう。清書のときは、項目の説明やマークは書きません。

（構成 題材 表現 主題 ）

（　項目マークの絵は、枝、葉、花、実がわかるように自由にかいてかまいません。）

（３）課題フォルダの中身

課題フォルダには、週ごとの課題と解説と長文が載っています。その週の課題を見て、書くことを準備しておいてください。

・課題フォルダの長文は、毎日の音読に使ってください。感想文の課題のときの、もとになる長文も兼ねています。

●言葉の森 233-0015 横浜市港南区日限山4-4-9 電話 045-353-9061